

- 基本計画の名称：日光市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：栃木県日光市
- 計画期間：平成 23 年 3 月から平成 28 年 3 月まで（5 ヶ年）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 日光市及び日光市中心市街地の概要

(1) 日光市の概要

1) 沿革

日光市は平成 18 年 3 月 20 日、旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧足尾町、旧栗山村の 2 市 2 町 1 村の合併により誕生した。この 2 市 2 町 1 村は、豊かな自然環境と貴重な歴史的・文化的遺産、随所に湧出する豊富な温泉など、恵まれた観光資源を基盤として発展してきた。

8 世紀末の勝道上人による日光開山以後、山岳信仰の聖地として崇拝されてきた日光に 17 世紀はじめに徳川家康公の霊廟である東照宮が建立された後、旧今市市は、日光街道・例幣使街道・会津西街道の結節点の宿場町として、旧日光市は二社一寺の門前町として栄えてきました。さらに、旧藤原町では、17 世紀末に鬼怒川温泉が、18 世紀初頭には川治温泉が発見され、日本有数の温泉保養地としても発展するようになった。

また、同じ勝道上人によって開山された旧足尾町も、庚申講信仰の総本山として多くの信仰を集めていたが、17 世紀初頭に銅鉱脈が発見された後は、日本を代表する銅山として栄え、日本の近代化に大きな功績を残した。

一方、旧栗山村は、平家の落人により集落が築かれたともいわれ、平家杉や平家塚などの史跡が残されているほか、湯西川や奥鬼怒温泉郷をはじめとする温泉保養地としても栄えてきた。

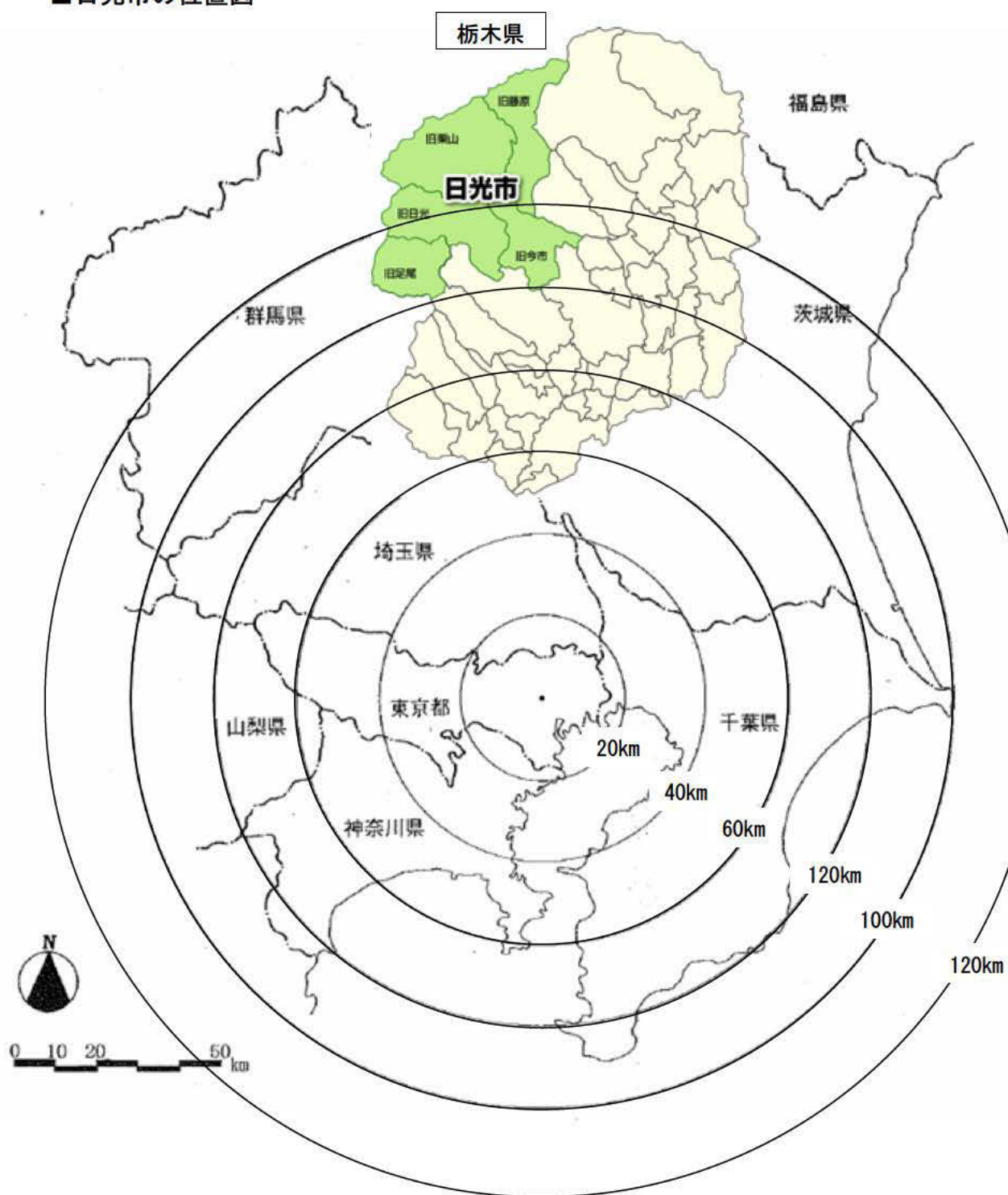
2) 位置・地勢

日光市は栃木県の北西部に位置し、北は福島県、西は群馬県に接している。首都・東京から約 120km 圏内にある。

地形は標高 200m 程度の平坦地域（市街地）から 2,000m を超す山岳地域まで大きな起伏があり、四季を通じて変化に富んだ観光・スポーツ・レクリエーションを可能にしており、国内外から多くの観光客が訪れている。また、日光・鬼怒川をはじめとする“日光国立公園”が市域内にある。

市域の総面積は 1,449.87km² で、県土の約 4 分の 1 を占めている。

■日光市の位置図



3) 人口・世帯

本市の人口は、平成 17 年国勢調査によると 94,227 人となっている。

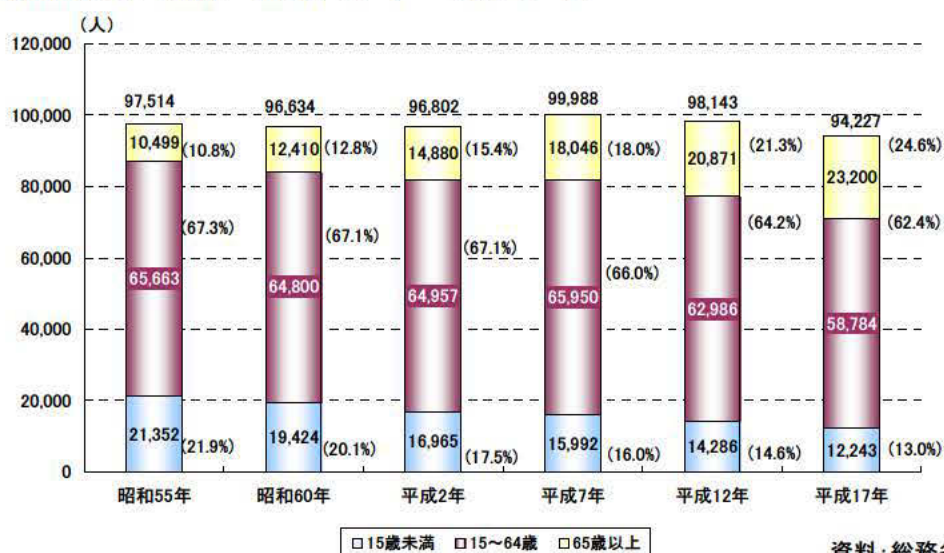
平成 7 年までは人口増加傾向にあり、ピーク時（平成 7 年）は 99,988 人に達したが、その後減少傾向にある。

平成 18 年 3 月に市町村合併が行われ、平成 21 年 10 月 1 日現在（住民基本台帳人口）、92,659 人となっている。

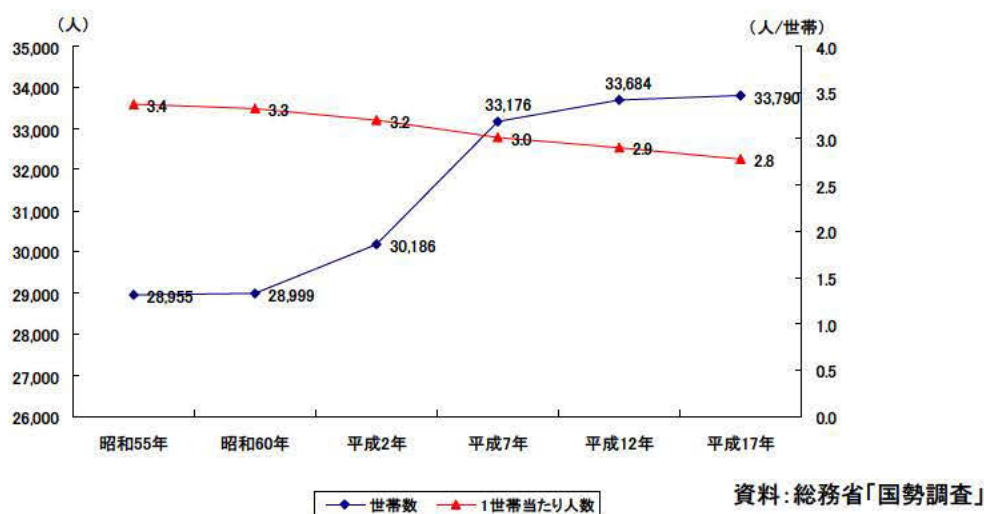
同様に年齢別人口構成をみると、平成 17 年国勢調査では、年少人口（0～14 歳）が占める割合は 13.0%であり、老年人口（65 歳以上）が占める割合は 24.6%となっている。昭和 55 年以降の推移をみると、少子高齢化が進行している状況にある。

また、本市の世帯数は年々増加を続け、平成 17 年で 33,790 世帯となり、昭和 55 年に比べ約 17%増加している。一方、1 世帯当たり人数は減少を続けており、世帯の核家族化が進んでいることが伺える。

■日光市の人口推移（昭和 55 年～平成 17 年）



■日光市の世帯数と1世帯当たり人数の推移（昭和 55 年～平成 17 年）



4) 産業構造

日光市の産業構造を事業所・企業統計調査でみると、平成 18 年度調査結果では、事業所数は卸売業・小売業が最も多く、次いで飲食店・宿泊業、サービス業となっており、第 3 次産業の比率が高い。

従業者数では製造業、卸売業・小売業、飲食店・宿泊業が多い。

平成 13 年度調査結果から平成 18 年度調査結果にかけては、製造業において縮小傾向が見られる。

■日光市の事業所数の推移（平成 13 年～平成 18 年）

単位：事業所、%	平成13年(a)	平成16年(b) (簡易調査)	平成18年(c)	前回比 (c)/(b)
全産業	5,675	4,928	5,105	1.04
農林漁業	43	31	43	1.39
鉱業	11	9	9	1.00
建設業	582	554	526	0.95
製造業	449	410	399	0.97
電気・ガス・熱供給・水道業	22	5	20	4.00
情報通信業	148	11	12	1.09
運輸業		96	89	0.93
卸売・小売業	2,441	1,393	1,384	0.99
飲食店、宿泊業		1,148	1,121	0.98
金融・保険業	55	42	38	0.90
不動産業	105	117	119	1.02
医療、福祉	1,743	179	229	1.28
教育、学習支援業		112	182	1.63
複合サービス事業		16	41	2.56
サービス業 (他に分類されないもの)		805	828	1.03
公務 (他に分類されないもの)	76	—	65	—

資料：事業所・企業統計調査

■日光市の従業員数の推移（平成 13 年～平成 18 年）

単位：事業所、%	平成13年(a)	平成16年(b) (簡易調査)	平成18年(c)	前回比 (c)/(b)
全産業	44,362	37,566	41,723	1.11
農林漁業	314	377	449	1.19
鉱業	155	121	122	1.01
建設業	3,979	3,69	3,064	0.84
製造業	8,750	7,564	8,129	1.07
電気・ガス・熱供給・水道業	445	260	370	1.42
情報通信業	1,901	73	89	1.22
運輸業		1,263	1,459	1.16
卸売・小売業	11,853	7,834	7,683	0.98
飲食店、宿泊業		7,945	7,825	0.98
金融・保険業	670	491	461	0.94
不動産業	208	258	241	0.93
医療、福祉	14,828	2,461	3,464	1.1
教育、学習支援業		520	1,744	3.35
複合サービス事業		338	538	1.59
サービス業 (他に分類されないもの)		4,432	4,940	1.11
公務 (他に分類されないもの)	1,259	—	1,145	—

資料：事業所・企業統計調査

(2) 中心市街地の概要

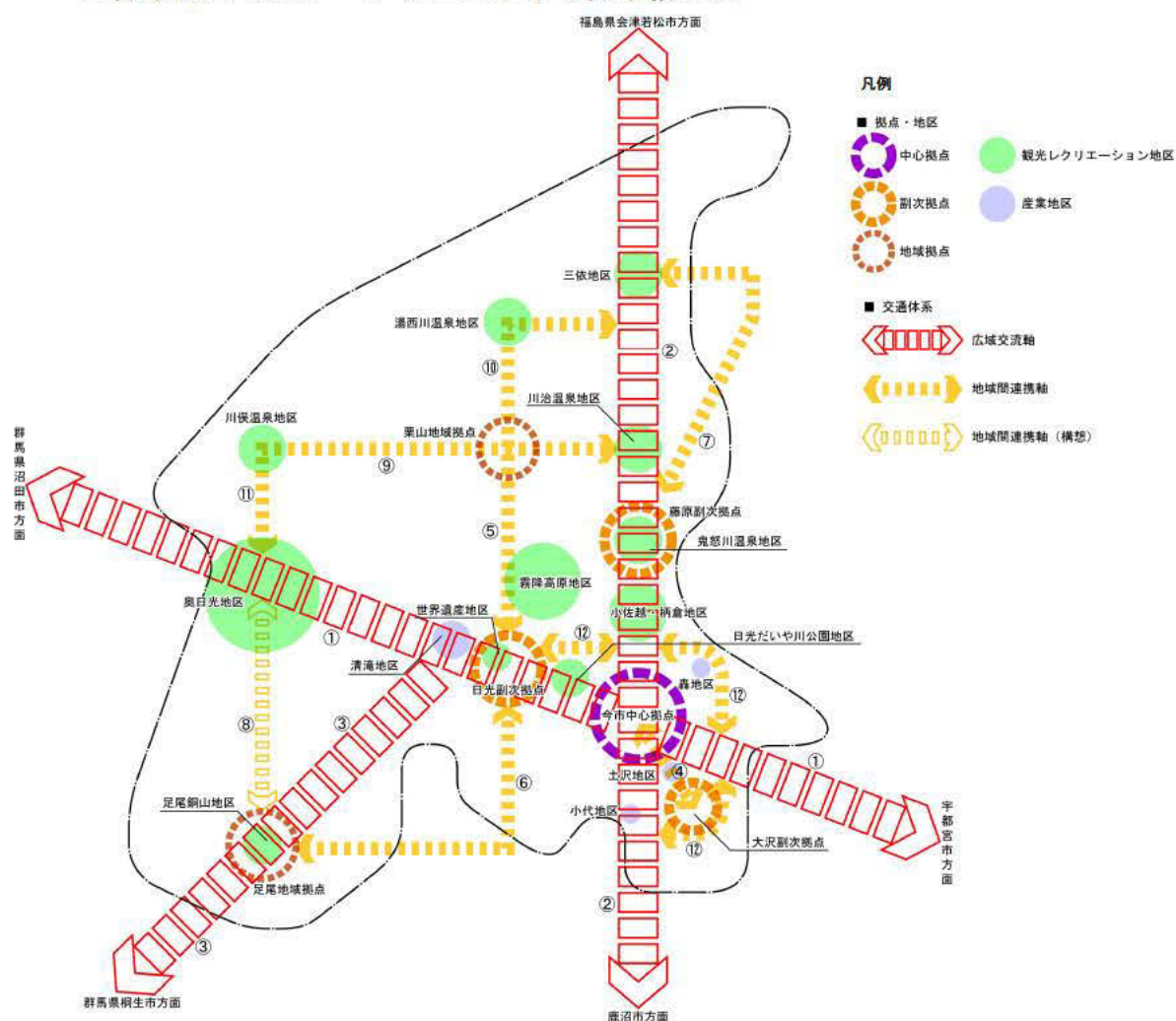
1) 日光市中心市街地（今市市街地）の位置付け

日光市は平成 18 年 3 月に、旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧足尾町、旧栗山村の 2 市 2 町 1 村の合併により誕生し、市域の総面積は県土の約 4 分の 1 を占めている。

地勢及び交通体系から、旧市町村の中心部の中でも今市市街地は市内各方面の交通結節点にあたる。特に、東武鉄道に関しては、浅草寺や東京スカイツリーなどを沿線に持つ浅草と日光をつないでおり、国内外から多くの観光客を運んでいる。下今市駅においても、歴史観光客等の途中下車が期待される。一方、日光市街地や鬼怒川温泉市街地は日光東照宮、鬼怒川温泉などに代表される我が国屈指の観光拠点（副次核）となる。

このような地区特性を踏まえ、観光面での集客力がある日光、鬼怒川ではその強化を図ることとする。今市は交通結節点という立地特性と公共・公益施設等も整っている状況を活かし、本市の公共公益サービス、商業・生活サービスを支える中心核として、そして日光・鬼怒川といった市内の観光エリアとの連携のもと、市全体の活性化を図ることとする。

■都市計画マスタープランにおける都市構造図



2) 交通の要衝

本市の中心市街地（今市地区）は、おおよそ国道 119 号、121 号と駅間道路を軸として広がっており、日光街道、例幣使街道、会津西街道などの主要な結節点として、交通上の要衝に位置する宿場町、また近在の農山村の物資が集散する市場町として発展を遂げてきた。

本中心市街地は、平成 18 年 3 月の合併以前から、旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧栗山村からなる旧日光広域圏の中心としての機能を担っている。

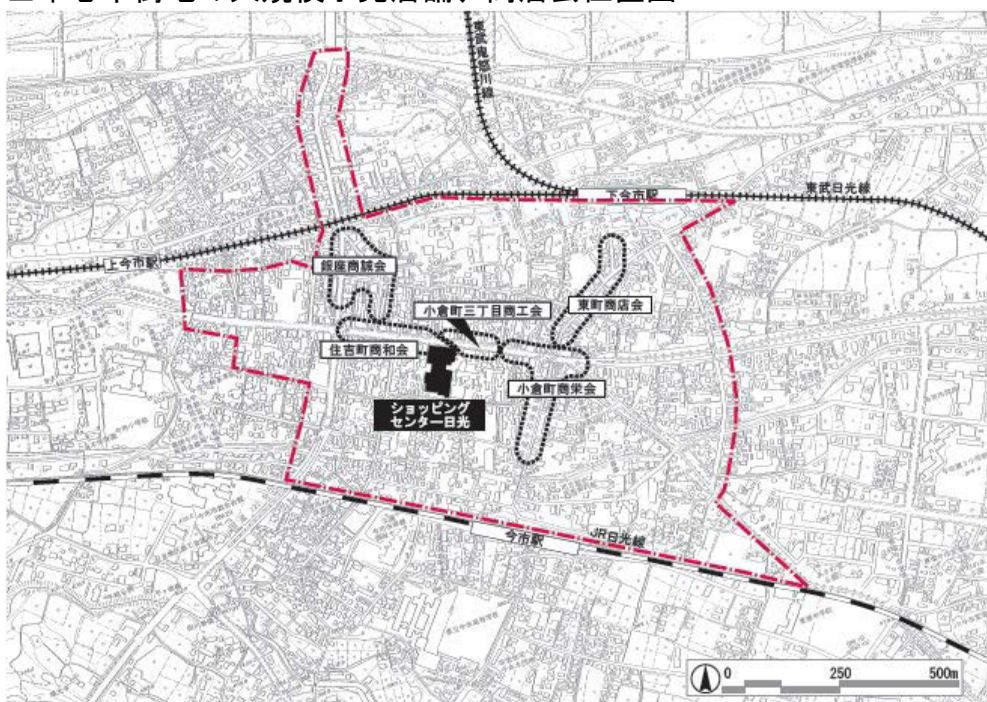
交通環境においても、鉄道網はＪＲ日光線及び東武日光線・東武鬼怒川線が中心市街地内を走っており、また、道路網は日光宇都宮道路今市インターチェンジに近接し、国道 119 号、121 号がまちの軸となっているなど、市外からの交通の要衝となっている。

3) 商業環境の変化

本市の中心市街地の商業環境は、大規模小売店舗 1 店舗を核に中心市街地の骨格となる国道 119 号沿道を中心に商店会が形成されているが、旧中心市街地活性化基本計画（平成 11 年 2 月）策定以降、中心市街地の集客施設であった長崎屋が平成 13 年に撤退したことにより、中心市街地内の歩行者通行量などに影響を与えるとともに、商業経営者の高齢化、後継者などの不在から、中心市街地周辺に 10 組織あった商店会は 5 組織にまで減少し、商業環境の疲弊が見られる。

長崎屋撤退後は、空きビルにスーパーかましん、市民サービスセンター(平成 13 年 7 月開店、開所)、地域子育て支援センター(平成 16 年 10 月開所)が入り、平成 20 年 10 月ビル所有者が交代し、「ショッピングプラザ日光」として、まちづくりの拠点となっており、活性化に向けた展開を進めている。

■中心市街地の大規模小売店舗、商店会位置図



〔2〕旧中心市街地活性化基本計画の検証

（1）旧中心市街地活性化基本計画の概要

本市では、平成 10 年度に、旧中心市街地活性化法に基づき、商業者、商工会議所、行政の連携のもと、中心市街地（旧今市市中心市街地）としての特徴を活かした更なる魅力づくり・活力向上を目指し、地域の位置づけや資質を把握した上で、中心市街地の目指すべき将来像、その実現に必要な整備項目・手法をまとめた、今市市中心市街地活性化基本計画（以下、「旧基本計画」と言う。）を策定した。

そして、旧基本計画に基づき、第 3 セクター型 TMO：株式会社オアシス今市を発足し、主に商業等の活性化に関わる事業を展開してきた。

■旧基本計画の概要

1）平成 11 年 2 月策定（更新：平成 16 年 2 月）

2）目標

- ・中心市街地活性化のテーマ「いちえん融合 賑わいのあるまちづくり～リゾート交流・生活拠点・個性化による中心市街地活性化に向けて～」に基づき、以下のまちづくりイメージを設定。

- ①楽しく歩けるまちづくり（集客力を向上させるためのキーワード）
- ②住み続けたいくなるまちづくり（生活環境を向上させるためのキーワード）
- ③ネットワークのあるまちづくり（まちづくりが発展するためのキーワード）

3）基本方針

- ・空間構成をゾーン（面）・軸（線）・拠点（点）ごとに整理し、加えて中心市街地周辺道路の基本方針を整理。

①土地利用ゾーニングの基本方針

：生活拠点ゾーン、リゾート交流ゾーン、居住ゾーン

②軸の基本方針

：中心市街地骨格軸、中心市街地回遊軸、中心市街地回遊補助軸、歴史のみち

③拠点の基本方針

：街なか観光・生活拠点、今の辻・市の辻の形成

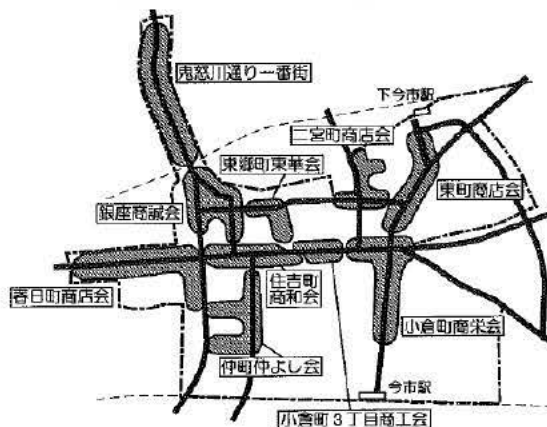
④中心市街地周辺道路の基本方針

：バイパス等の幹線道路網整備の促進、生活支援道路網の充実

4）区域

- ・区域面積：60ha

【中心市街地区域と商店街位置】



(2) 各種事業の実施状況と評価

1) 事業の実施状況

旧基本計画では、中心市街地活性化のテーマとして「いちえん融合 賑わいのあるまちづくり～リゾート交流・生活拠点・個性化による中心市街地活性化に向けて～」を掲げ、市街地の整備改善のための事業として 13 事業、商業等の活性化のための事業として 9 事業に取り組むこととした。

平成 20 年 7 月末現在、完了・実施（継続含む）事業が 13 事業、未着手事業が 9 事業となっている。以下、事業実施状況を整理する。

■事業実施状況

	事業の位置づけ			事業の実施状況			
	短期(初年度～5年)	中期(6～10年)	長期(11～20年)	合計 (A)	完了・実施 (B)	未着手 中止	実施率 (B/A) %
市街地の整備改善のための事業	●駅間JR今市地区のまちづくり ・街なか観光・生活拠点の整備 ○公共下水道整備 ・サインの整備	・国道119号の沿道整備 ・国際交流・地域情報センター ・人にやさしいまちづくりの推進	●その他支援施設の整備 ○生活支援道路の整備 ○辻の整備 ・(仮称)駅間東武下今市地区のまちづくり ○中心市街地回遊軸の整備 ・中心市街地活性化住宅の供給	13	6	7	46.2%
商業等の活性化のための事業	●まちづくり機関(TMO)の設立及び事業の実施 ●大規模小売店舗の空き店舗活用支援事業 ○イベントによる賑わいの創出 ○商業関係者の主体的参加による事業の展開 ○観光案内サービスの実施 ○観光都市のイメージアップ ・シルバーカードシステムの導入		○空き店舗・空き地の活用 ・交通サービスの実施	9	7	2	77.8%
事業数合計	11	3	8	22	13	9	59.1%
完了・実施	8	0	5				
未着手・中止	3	3	3				
実施率	72.7%	0.0%	62.5%				

注：●完了事業、○実施中事業、・未着手事業

2) 事業評価

各種事業の実施状況と評価を以下に整理する。

a. 市街地の整備改善のための事業

【面的整備】

中心市街地の面的な整備としてＪＲ今市駅から国道 119 号へのアクセス道路の改善、ＪＲ今市駅前広場の整備、居住環境の整備が図られ、中心市街地の玄関口としての魅力向上及び駅や商店街等への近接性を活かした住環境の魅力向上に寄与している。

【回遊軸整備】

中心市街地の歴史資源等を結ぶかたちで回遊軸を想定したものの、一部のルートを除き整備は進んでいない。また、既存道路の歩行空間の老朽化がみられる。

中心市街地内への、市内外からの誘客を目的として、回遊軸の歩行空間整備、誘導サイン整備とともに、歴史資源等の情報発信、回遊モデルの提示といったソフト面の事業との組み合わせにより、費用対効果を考えた事業展開が望まれる。

サイン整備については、平成 21 年 3 月に街並形成ガイドラインを策定し、今後、地区統一の推進を図る。

【施設整備】

大規模小売店舗跡の施設活用としての成果とともに、中心市街地において市民生活をサポートする機能を導入したことは評価できる。今後、市民サービスセンター、子育て支援センターを拠点に、講座等の充実による市民の活動拠点としてのさらなる充実、商店街の空き店舗活用にも結びつく展開の検討が望まれる。

b. 商業等の活性化のための事業

【まちづくり会社】

旧基本計画においては、地元をまとめる組織として、まちづくり機関（株式会社オアシス今市）が設置され、各種展開が図れた。

【空き店舗活用】

ショッピングプラザ日光 1 階に市民サービスセンター（平成 13 年以降）、4 階に子育て支援センター（平成 16 年以降）が開設され、賑わいの拠点として再活用しており、空き店舗の活用では一定の成果を得たといえる。

【ソフト事業】

販促イベントとして、日光そばまつり、今市おかみさん会による全日本しもつかれコンテスト、にぎわいのまちづくり研究会によるＪＲ今市駅前通り賑わい創出事業（六斎市）など、地元の各種団体が主体となった取り組みであり、継続的に実施されていることから、一定の成果を得たといえる。

〔3〕 中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況

(1) 歴史的・文化的資源

江戸時代に入り、日光東照宮が造営されると、日光参詣のために日光街道や例幣使街道、会津西街道などが整備された。これら3街道が合流する今市は、宿場町として急速に発展した。そのため、近在の農村や山村から物資が集まり、定期的に市が開かれる市場町としても栄えた。今市の名はこのことに由来している。

日光街道、例幣使街道、会津西街道の三街道の全長 37km にわたって約 13,000 本の杉がそびえる「日光杉並木街道」は、世界一長い並木道としてギネスブックに掲載され、現在、日本で唯一、特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けている貴重な文化遺産である。

今市は世界遺産に登録された「日光の社寺」と「奥日光」を有する日光地区への玄関口であり、中心市街地内にある「如来寺」には、東照宮を造った第3代将軍家光が宿泊するために建てられた壮大な御殿がある。また、報徳仕法の祖であり、今市の農村を復興した二宮尊徳翁死去の際、葬儀が行われた寺でもある。

また、「今市報徳二宮神社」は、報徳仕法によって多大の恩恵に浴し、尊徳翁の遺徳を敬う人々が終焉の地である今市の霊地に創建したものである。

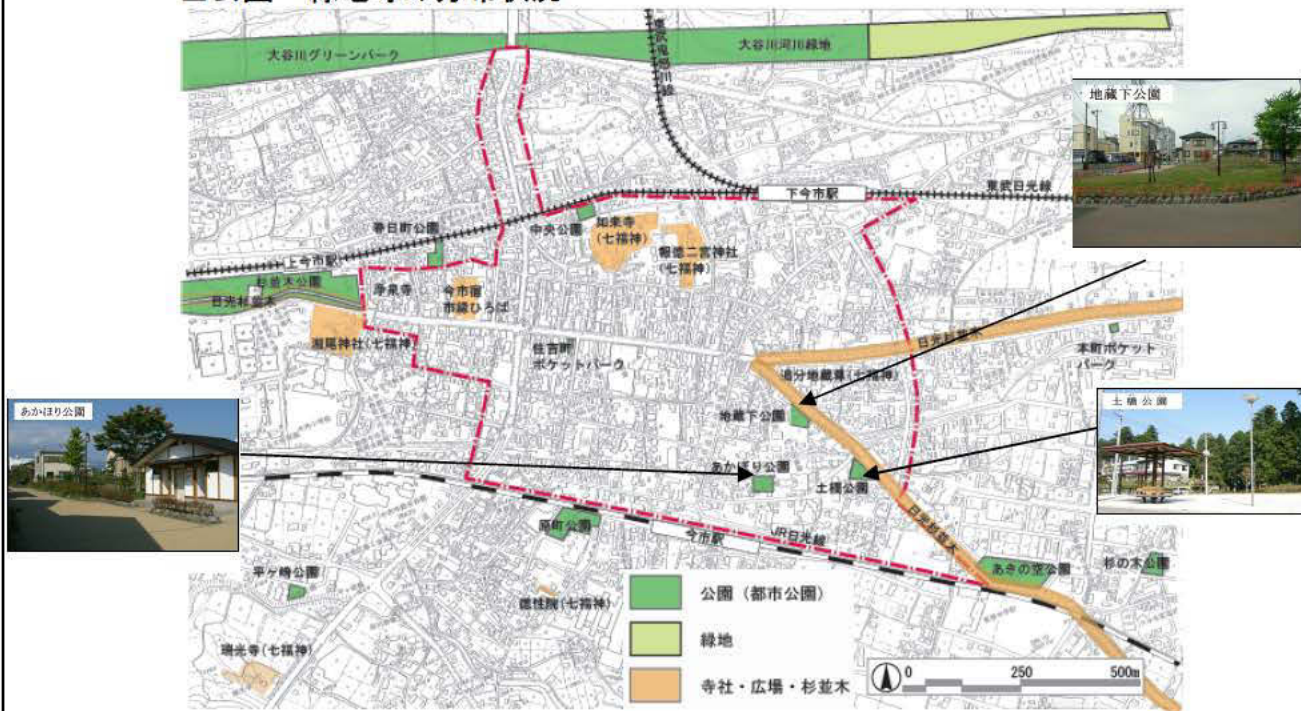
■ 中心市街地内の主な歴史資源



(2) 公園・緑地

中心市街地内には、公園は少ないものの、隣接した地域に公園や緑地がある。また緑を有した寺社や日光杉並木がある。

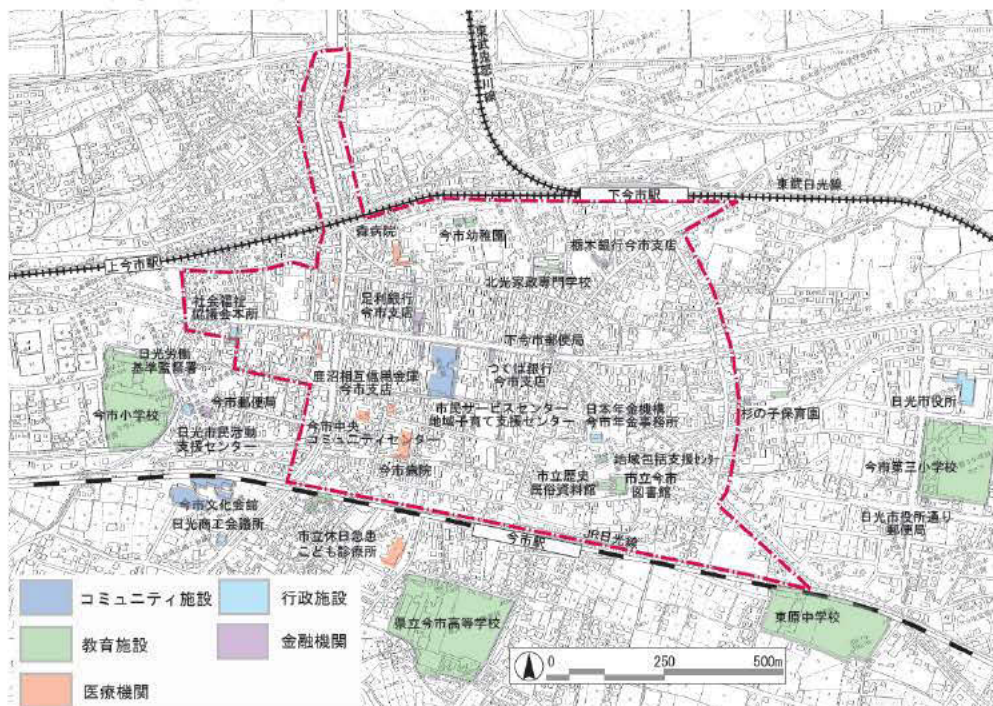
■公園・緑地等の分布状況



(3) 公共施設等

中心市街地内には多くの公共施設等が立地している。銀行や郵便局、民間の医療機関も多いほか、市民サービスセンターをはじめとするコミュニティ施設が充実している。

■公共施設等の分布状況



■ 中心市街地の都市機能施設一覧

種類	施設名	所在地
コミュニティ施設等	日光市地域包括支援センター	日光市中央町15-4
	日光市民サービスセンター	日光市今市456
	日光市地域子育て支援センター	日光市今市456
	日光市今市中央コミュニティセンター	日光市今市375
教育施設	今市幼稚園	日光市今市710
	北光家政専門学校	日光市今市1130-2
	日光市歴史民俗資料館	日光市中央町29-1
	日光市立今市図書館	日光市中央町29-1
医療機関	英静会森病院	日光市今市674
	明倫会今市病院	日光市今市381
行政施設	日光市社会福祉協議会本所	日光市今市511-1
	日本年金機構今市年金事務所	日光市中央町17-3
	今市宿市緑ひろば	日光市今市600-1
金融機関・郵便局	下今市郵便局	日光市今市786-1
	足利銀行今市支店	日光市今市704
	栃木銀行今市支店	日光市今市1122-2
	鹿沼相互信用金庫今市支店	日光市今市457
	筑波銀行今市支店	日光市今市443-2

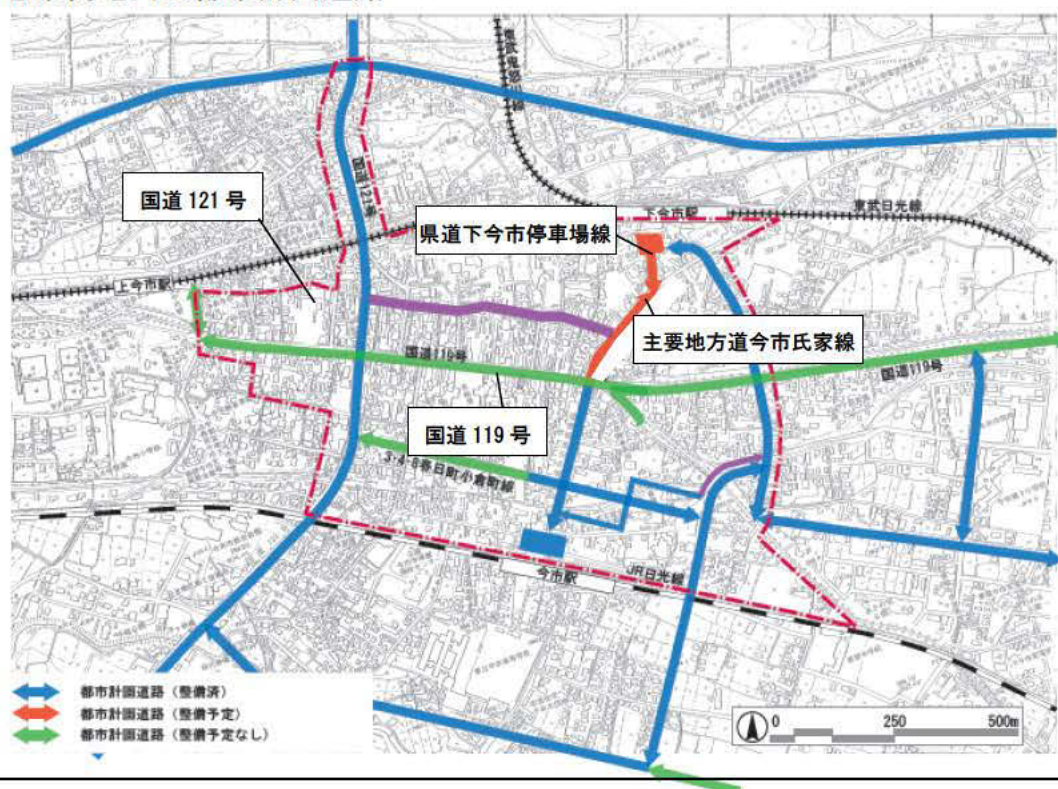
(4) 道路

中心市街地の主な幹線道路は、生活・産業・観光等のさまざまな面において大動脈となる国道 119 号が地区内を東西方向に、そして南北方向に国道 121 号が走り、周辺地区からの交通の要衝となっている。

都市計画道路の状況を見ると、駅間 JR 今市地区土地区画整理事業が実施された JR 今市駅と国道 119 号の間の地区で主要道路の整備が行われた。

今後、国道 119 号から東武下今市駅間を結ぶ県道下今市停車場線等の拡幅整備が予定されている。

■ 中心市街地内の都市計画道路



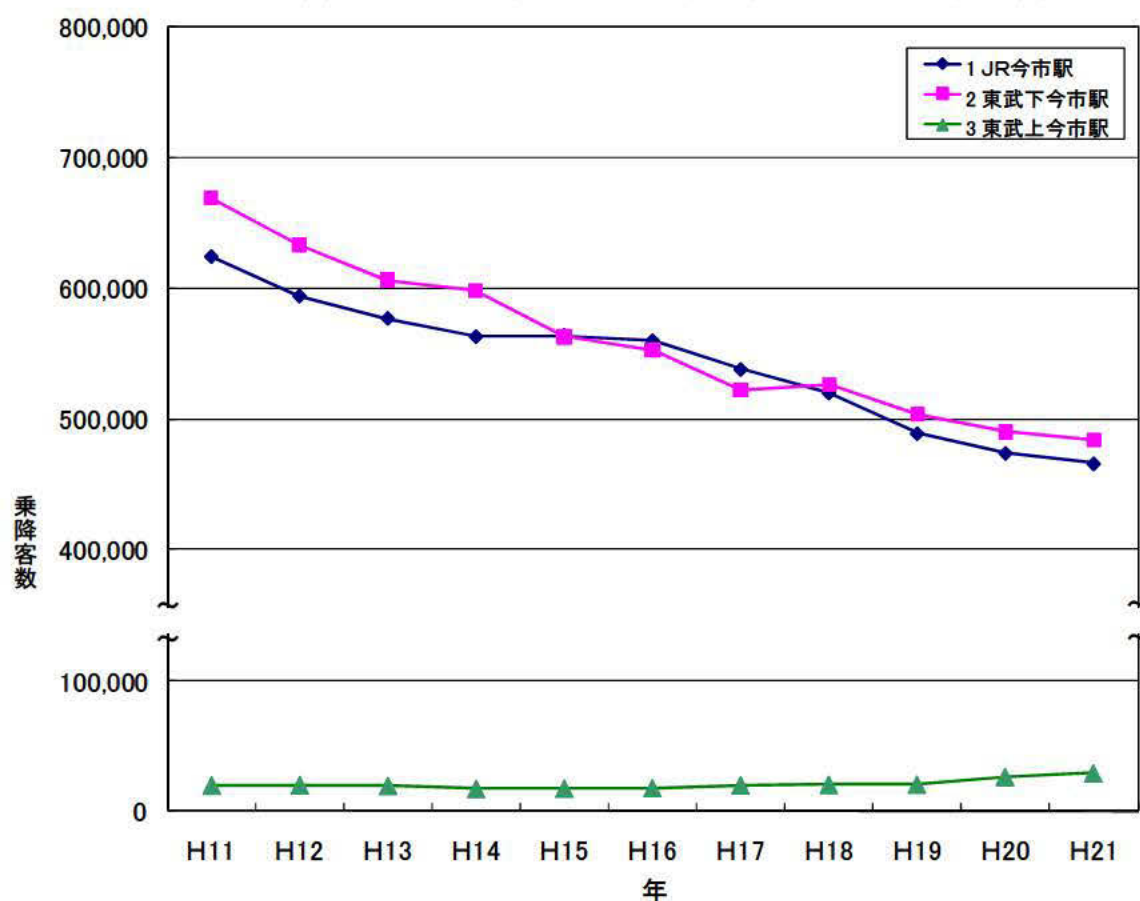
(5) 公共交通機関

① 鉄道

本市の公共交通は、ＪＲ日光線、東武日光線、東武鬼怒川線によって鉄道網が形成されており、下今市駅は東武日光線と東武鬼怒川線の分岐駅である。

ＪＲ今市駅、東武下今市駅、近接する東武上今市駅の乗降客の推移は以下のとおりで、中心市街地にある２駅の乗降客数は減少傾向にある。

■ 中心市街地及び近接する駅の乗降客数推移



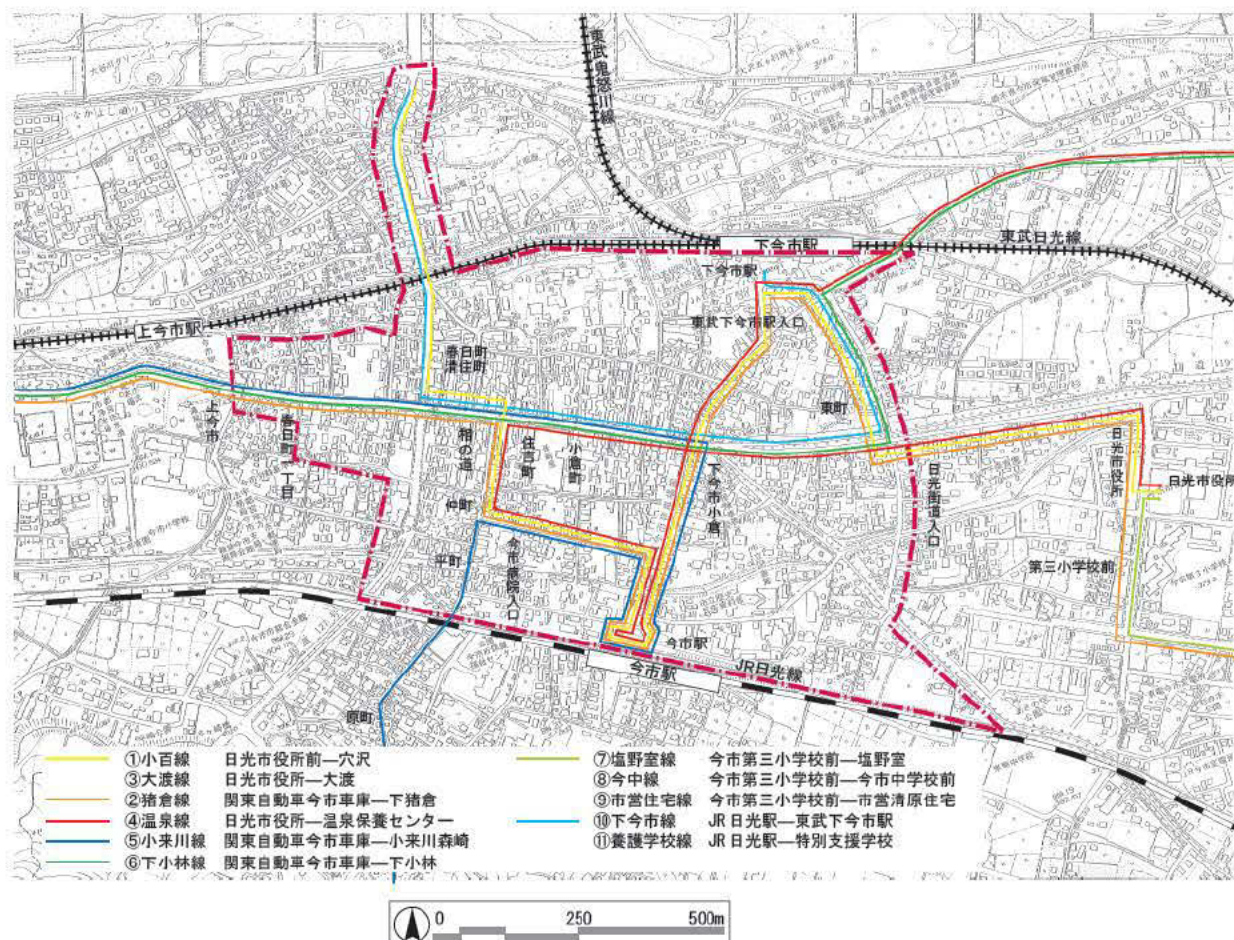
No.	駅名	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
1	JR今市駅	624,000	594,000	577,000	563,000	564,000	560,000	538,000	520,000	489,000	474,000	466,000
2	東武下今市駅	669,307	633,322	606,535	598,363	563,086	552,296	521,719	526,782	503,543	490,085	484,210
3	東武上今市駅	19,903	20,094	19,538	17,141	17,372	17,839	20,051	20,352	20,502	26,301	29,242

資料提供：ＪＲ東日本、東武鉄道

②バス

バス路線は、民間バス会社、市営バスにより、JR今市駅、東武下今市駅をそれぞれ結ぶ4路線を中心に、市街地を循環するバスが運行されている。

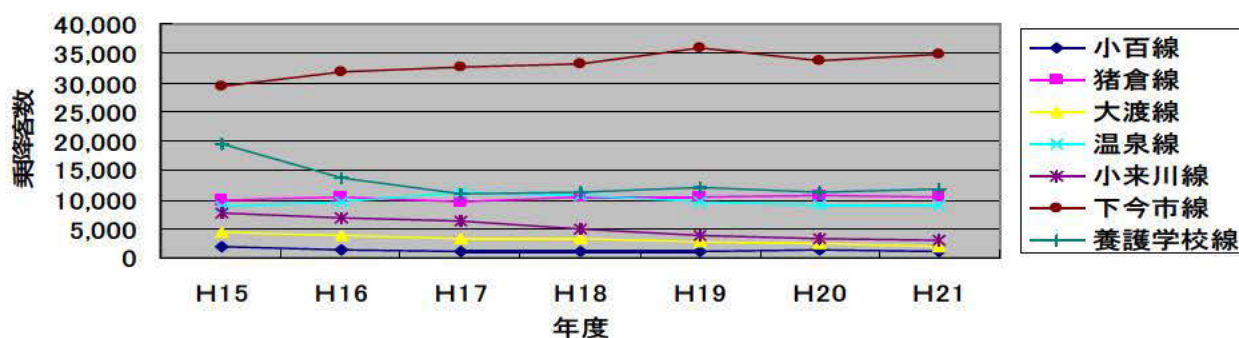
■中心市街地内バス路線



日光市営バス年間乗降客数の推移(単位：人)

路線名	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
小百線	2,048	1,386	1,191	978	1,132	1,324	1,045
猪倉線	9,929	10,541	9,644	10,328	10,490	10,672	10,347
大渡線	4,269	3,940	3,358	3,167	2,795	2,390	2,010
温泉線	8,847	9,615	11,219	10,582	9,636	9,104	9,077
小来川線	7,805	6,864	6,299	5,046	3,950	3,423	3,020
下今市線	29,353	31,828	32,581	33,201	35,971	33,709	34,819
養護学校線	19,570	13,641	10,974	11,179	12,112	11,352	11,727

日光市営バス年間乗降客数の推移



[4] 地域の現状に対する統計的なデータの把握

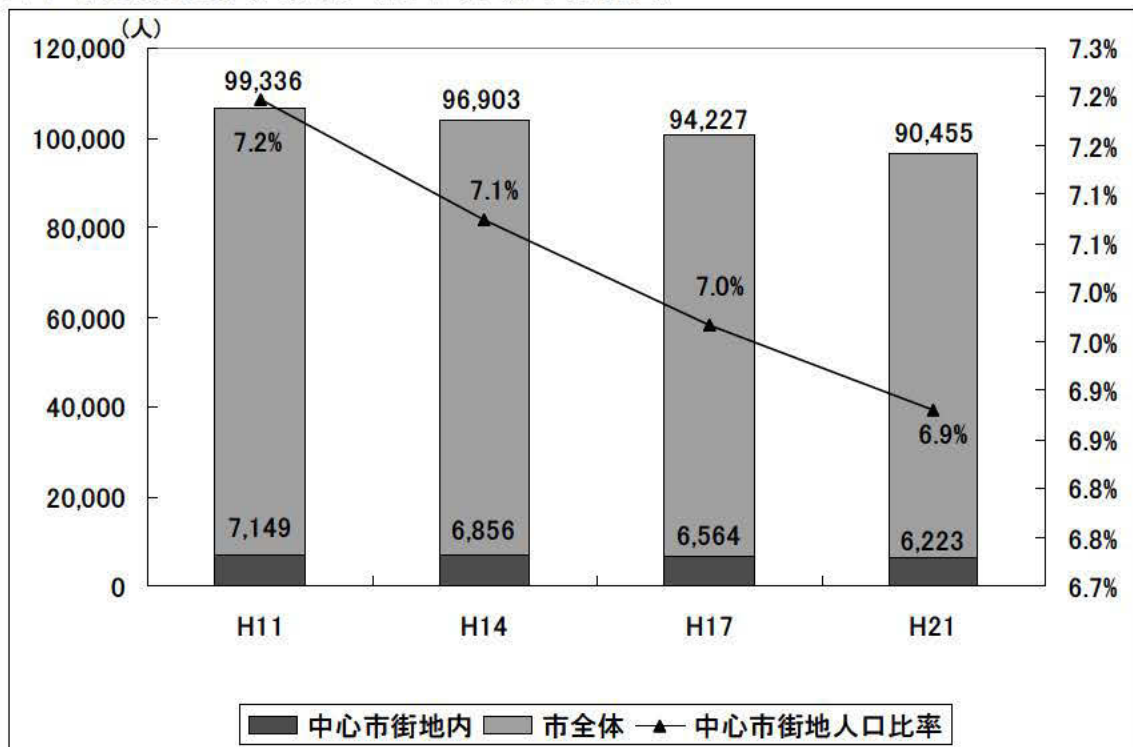
(1) 人口

住民基本台帳に基づき日光市全体と中心市街地の人口推移を見ると、平成11年から平成21年の10年間で日光市の人口は、約9.9万人から約9万人にと9千人程度の減少となっている。

その間、中心市街地の人口も減少しており、平成11年10月に7,149人だったものが、平成21年10月には6,223人と、約13%減少している。

また、この10年間の年齢別人口の推移を見ると、市全体に対して中心市街地では、生産年齢人口の構成比の減少割合は若干低いものの、構成比自体は市全体を下回っており、高齢人口の構成割合が30%を超えている。年少人口の割合も低く、少子高齢化が進んでいる。

■中心市街地の人口推移（各年10月1日現在）



資料：「住民基本台帳」

■日光市及び中心市街地の人口年齢構成（各年10月1日現在）

		平成11年		平成21年		増減
		人口	構成比	人口	構成比	
市域全体	年少人口	14,803	14.9%	10,874	12.0%	△2.9%
	生産年齢人口	64,152	64.6%	54,687	60.5%	△4.1%
	高齢人口	20,381	20.5%	24,894	27.5%	7.0%
	合計	99,336	—	90,455	—	△8.94%
中心市街地	年少人口	988	13.8%	709	11.4%	△2.4%
	生産年齢人口	4,418	61.8%	3,609	58.0%	△3.8%
	高齢人口	1,743	24.4%	1,905	30.6%	6.2%
	合計	7,149	—	6,223	—	△12.95%

資料：「住民基本台帳」

(2) 小売商店数・小売売場面積・小売従業員数・小売年間販売額

商業統計調査によると、日光市全体の小売商店数、小売年間販売額は減少傾向にある。平成9年から平成14年の間に小売売場面積、小売従業員数が急増しており、郊外部における大規模小売店舗の出店が要因であると考えられる。

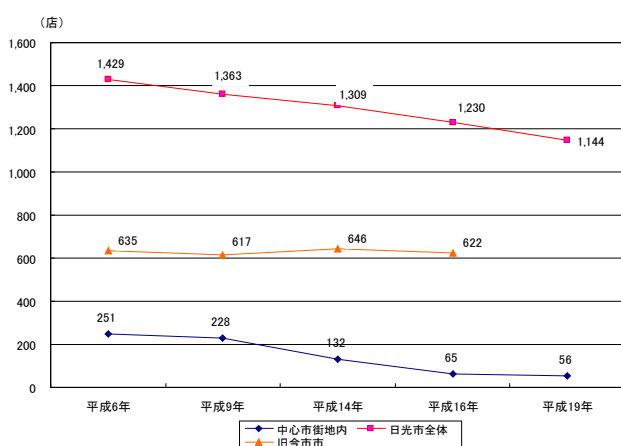
一方、中心市街地の各商業指標はいずれも減少傾向が続いている。

また、商業経営者の高齢化、後継者などの不在から、旧基本計画策定時（平成11年度）に10組織あった商店会は5組織にまで減少し、商業環境の疲弊が見られる。

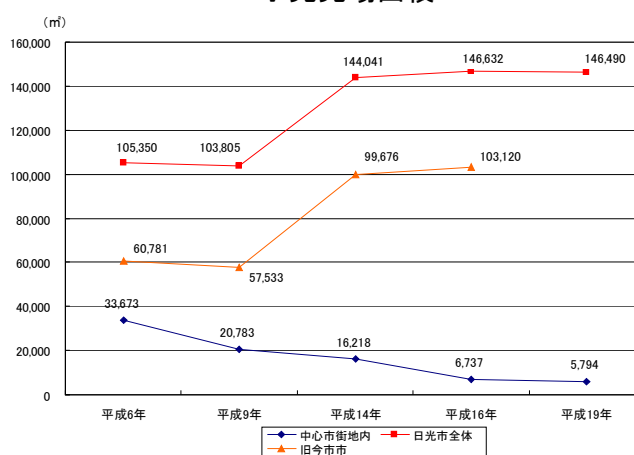
なお、平成16年までは、合併前の旧市町村の数値を合計したものを日光市全体の数値として示す。

■商業統計主要指標

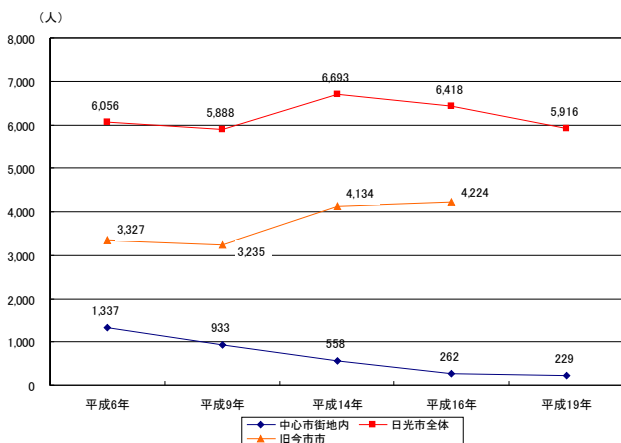
小売商店数



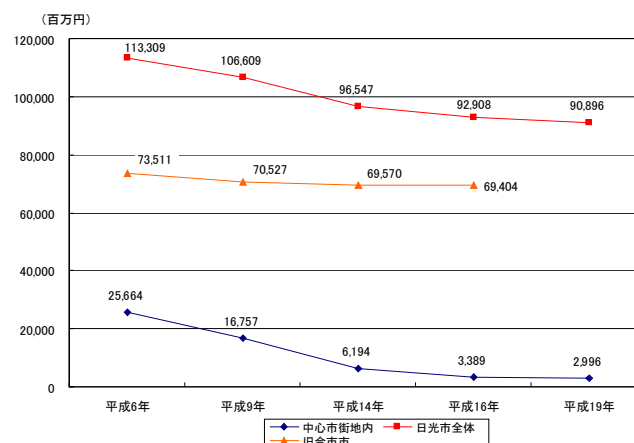
小売売場面積



小売従業員数



小売年間販売額



資料：商業統計調査

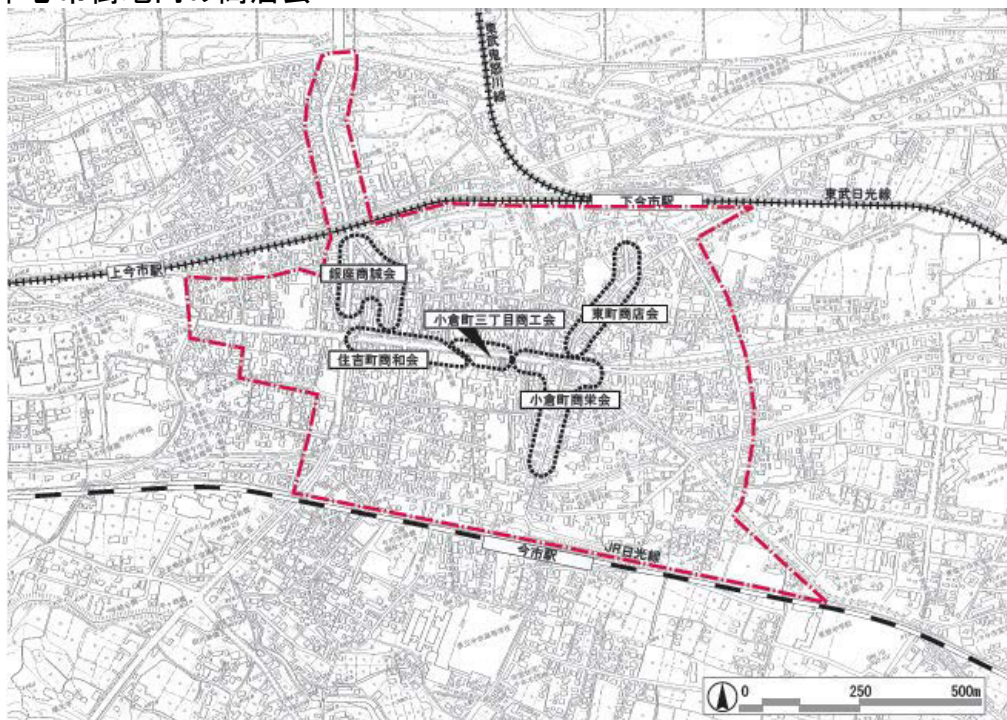
H11は簡易調査のため中心市街地のデータはなし

H16までは合併前の旧市町のデータを合計、H19は合併後の日光市のデータを示す。

参考に、合併前の旧今市市のデータ（H16まで）を示す。

中心市街地内の数値は、商業統計調査で把握可能な商店会（東町商店会、住吉町商和会、小倉町商栄会）のみを集計している。

■ 中心市街地内の商店会



(3) 空き店舗の状況

中心市街地における空き店舗状況をみると、平成 21 年 5 月調査時点で 99 店舗ある。東武下今市駅につながる東町、小倉町で空き店舗及び店舗の住宅化が集中している。

■ 空き店舗数の推移

中心商店街町内別空き店舗数の推移

	平成19年			平成20年			平成21年		
	事業所数	空店舗数	空店舗率	事業所数	空店舗数	空店舗率	事業所数	空店舗数	空店舗率
川 原 町	13	0	0.0%	13	1	7.7%	12	2	16.7%
朝 日 町	4	2	50.0%	4	2	50.0%	4	2	50.0%
春 日 町	47	1	2.1%	47	2	4.3%	48	4	8.3%
清 住 町	3	0	0.0%	3	1	33.3%	3	1	33.3%
相 生 町	20	1	5.0%	20	1	5.0%	20	1	5.0%
住 吉 町	32	1	3.1%	32	6	18.8%	32	6	18.8%
小 倉 町	140	17	12.1%	140	29	20.7%	142	30	21.1%
東 郷 町	16	0	0.0%	16	0	0.0%	16	0	0.0%
二 宮 町	6	3	50.0%	6	3	50.0%	7	3	42.9%
仲 町	33	2	6.1%	33	5	15.2%	33	7	21.2%
平 町	10	5	50.0%	10	5	50.0%	10	5	50.0%
桜 木 町	36	7	19.4%	36	7	19.4%	30	10	33.3%
平 ケ 崎	20	1	5.0%	20	1	5.0%	19	0	0.0%
東 町	85	16	18.8%	85	20	23.5%	78	28	35.9%
瀬 川	19	0	0.0%	19	0	0.0%	14	0	0.0%
総 計	484	56	11.6%	484	83	17.1%	468	99	21.2%

各年 5 月 31 日現在、日光商工会議所調べ

(4) 大規模小売店舗の状況

本市における 1,000 ㎡以上の大規模小売店舗は、合併前の旧市町の中心部や郊外道路沿いに立地しており、約 9 割は旧今市市に立地している。

中心市街地には 1 店舗のみ立地している。

1,000 ㎡以上の大規模小売店舗、平成 11 年から平成 20 年の 10 年間に、市全体で 3 店舗増加しており、郊外部の進出が続いている。

■大規模小売店舗の状況（1,000 ㎡以上）

	平成 11 年		平成 20 年	
	店舗数	売り場面積	店舗数	売り場面積
市全体	14	69,402 ㎡	17	77,666 ㎡
中心市街地内	1	8,984 ㎡	1	8,984 ㎡
中心市街地比率	7.1%	14.2%	5.6%	11.6%

資料：東洋経済新報社「全国大型小売店総覧」より作成

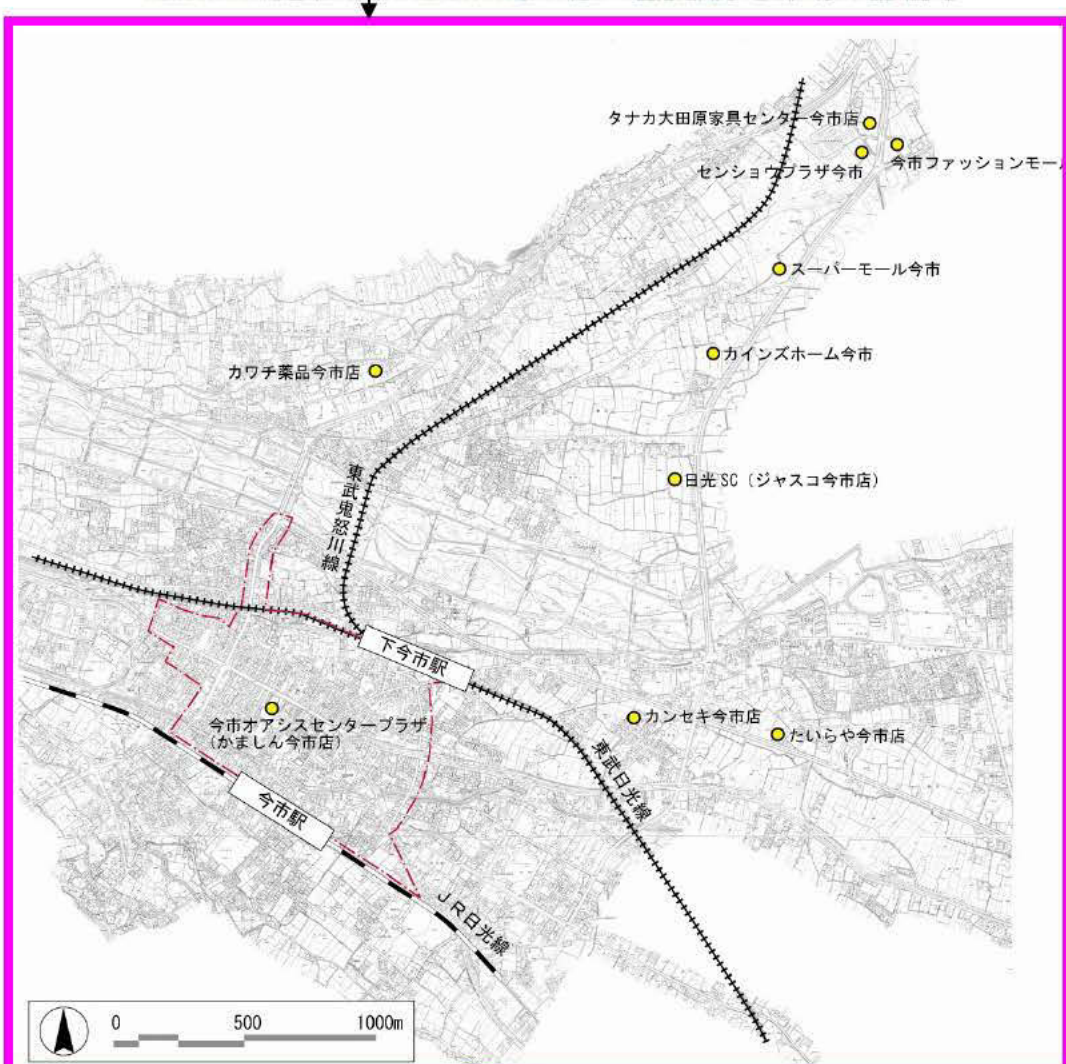
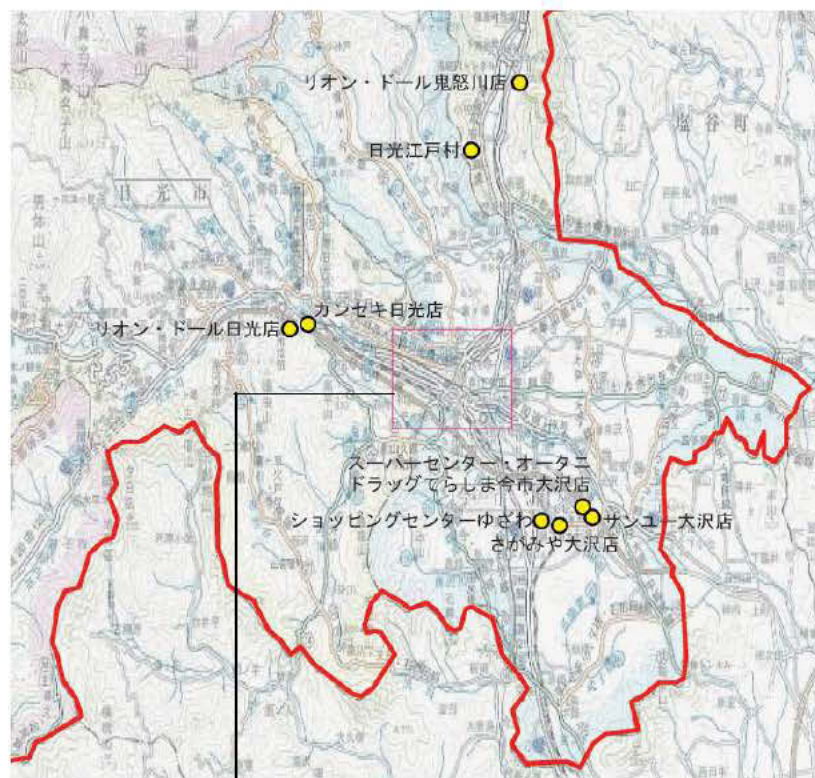
■大規模小売店舗の概要（1,000 ㎡以上）

	届出店舗名 () 内は現状店舗名	旧市町	届出住所	届出店舗 面 積	開店 時期	閉店 時期
1	いせや今市店	旧今市市	日光市今市	6,441 ㎡	S48	H11
2	カンセキ今市店	旧今市市	日光市今市	5,422 ㎡	S56	—
3	長崎屋今市店	旧今市市	日光市今市	8,984 ㎡	S58	H13
4	日光江戸村	旧藤原町	日光市柄倉字大岩下	1,034 ㎡	S60	—
5	たいらや今市店	旧今市市	日光市今市字下原	1,722 ㎡	H1	—
6	リオン・ドール日光店	旧日光市	日光市日光	1,583 ㎡	H1	—
7	さがみや大沢店	旧今市市	日光市木和田島	1,588 ㎡	H3	—
8	カンセキ日光店	旧日光市	日光市東和町	1,011 ㎡	H7	—
9	カワチ薬品今市店	旧今市市	日光市瀬尾	1,880 ㎡	H8	—
10	カインズホーム今市店	旧今市市	日光市豊田	5,888 ㎡	H9	—
11	サンユー大沢店	旧今市市	日光市木和田島	1,431 ㎡	H9	—
12	センショウプラザ今市	旧今市市	日光市芹沼	5,844 ㎡	H9	—
13	カカ大田原家具センター今市店	旧今市市	日光市芹沼	2,965 ㎡	H9	—
14	日光 SC（ジャスコ今市店）	旧今市市	日光市豊田字中林	20,832 ㎡	H10	—
15	スーパーモール今市	旧今市市	日光市芹沼	9,218 ㎡	H11	—
16	今市オアシスセンタープラザ （かましん今市店） ※H20 に建物所有者が変わり、 「ショッピングプラザ日光」と なる。核店舗の「かましん今市 店」は継続運営。	旧今市市	日光市今市	8,984 ㎡	H13	—
17	リオン・ドール鬼怒川店	旧藤原町	日光市鬼怒川温泉大原	1,401 ㎡	H13	—
18	今市ファッションモール	旧今市市	日光市芹沼	3,492 ㎡	H14	—
19	スーパーセンター・オータ ドラッグてらしま今市大沢店	旧今市市	日光市木和田島	3,371 ㎡	H14	—

※太枠は中心市街地に位置する大規模小売店舗

資料：東洋経済新報社「全国大型小売店総覧」より作成

■大規模小売店舗の立地状況



(5) 商圈

日光市は栃木県の1/4の面積を占め、旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧足尾町、旧栗山村の2市2町1村の合併により、旧今市市の第1次商圈がほぼ新市の市域となっている。

平成19年度に実施された新市における買物調査では、商品総合で買い物をする市を見ると、最も多い市が「日光市」の67.1%で、次に「宇都宮市」23.1%、「鹿沼市」3.8%となっている。

市内の動向をみると、「今市地域（旧今市市）」が96.3%で最も多く、次に「日光地域（旧日光市）」2.5%、「藤原地域（旧藤原町）」1.1%の順となっている。

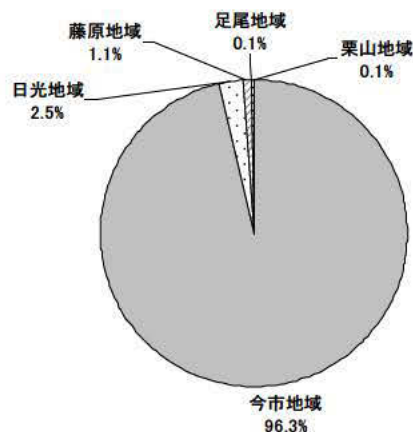
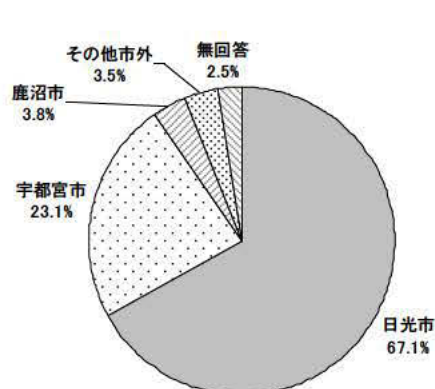
中心市街地が位置する今市地域は、市町村合併以前から商圈の中心的役割を持っている。

■第1次商圈（旧市町での状況）

	宇都宮市	足利市	栃木市	佐野市	鹿沼市	日光市	今市市	小山市
第1次商圈 吸収率 30%以上	宇都宮市 河内町 上河内町 高根沢町 芳賀町 上三川町 南那須町 壬生町 氏家町 石橋町 烏山町 市貝町	足利市	栃木市 都賀町 大平町	佐野市 田沼町 葛生町 藤岡町 岩舟町	鹿沼市 栗野町		栗山村 足尾町 藤原町 日光市 今市市	小山市 国分寺町 南河内町
	人口	709,378	160,891	124,729	162,313	104,085	95,809	197,119
	吸収率	77.9	86.3	74.9	68.8	80.4	65.7	77.8
	吸収人口	552,915	138,900	93,391	111,660	83,641	62,963	153,427

資料：平成16年度地域購買動向調査報告書（栃木県）

■本市の買い物動向（左：買い物をする市、右：買い物をする地域）

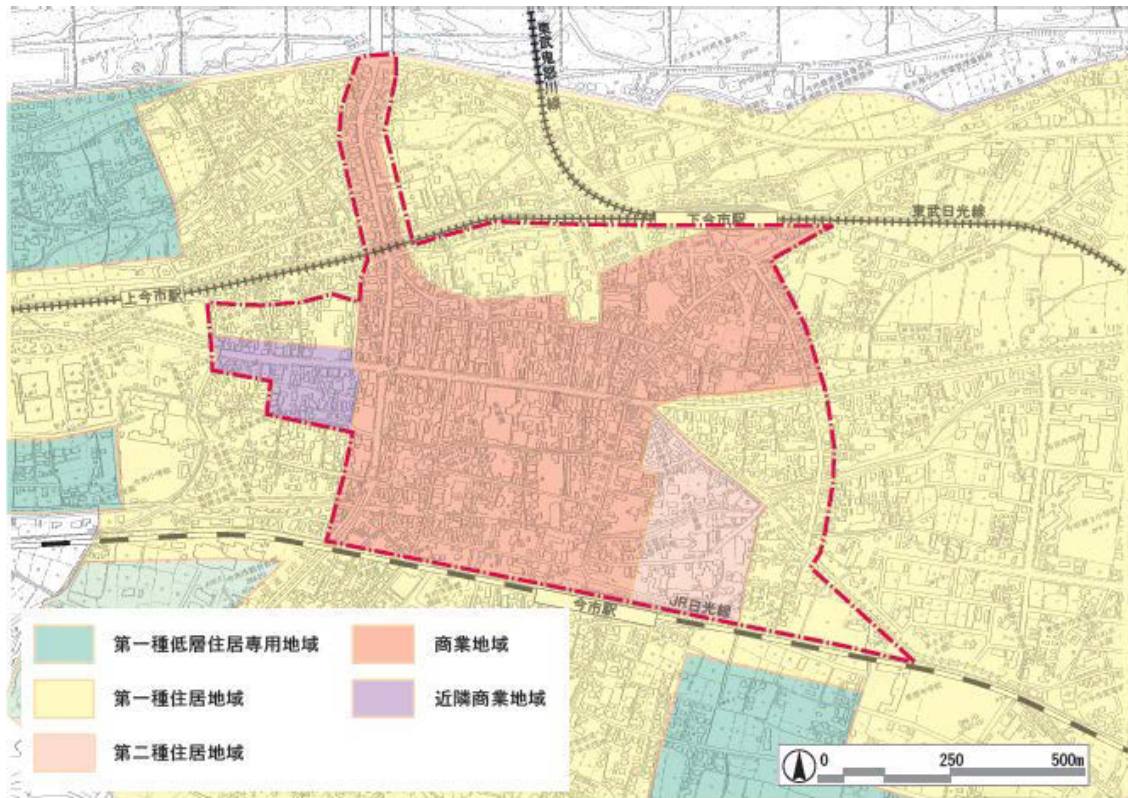


資料：平成19年度買物調査（日光市）

(6) 土地利用の状況

中心市街地における用途地域の構成は、商店街を含むほとんどの地域が商業地域(容積率 400%)に指定されている。建物用途別現況図からも、中心市街地の主要幹線道路である国道 119 号沿道に商業系の建物が集積している。

■日光市中心市街地の用途地域



資料：日光市都市計画図

(7) 地価の状況

本市の地価は、地価公示の対象となる全地点で値下がりが続いている。平成 11 年から平成 20 年の公示価格の変化を見ると、市域全体で 36.3%の値下がりとなっている。

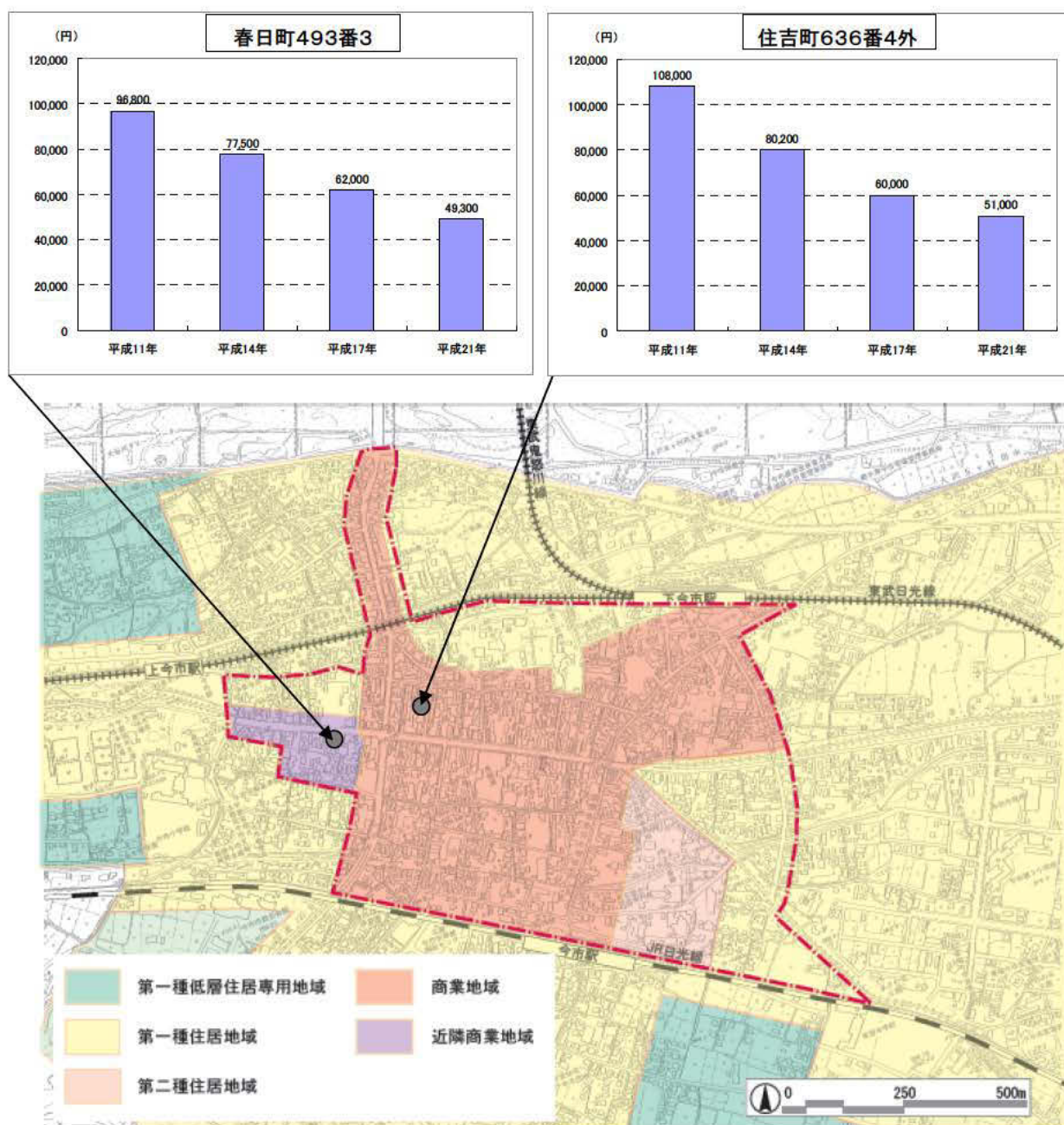
なかでも中心市街地内の 2 地点の平均では同 50.7%の値下がりであり、9 年前と比較すると半値の水準まで地価下落が進んでいる。

■日光市内の公示地価の推移

ポイント	住所	公示価格（円／㎡）				伸び率 (H11→ H21)
		平成 11 年	平成 14 年	平成 17 年	平成 21 年	
日光-1	日光市稲荷町2丁目370番3	54,400	50,900	46,000	40,500	△25.6%
日光-2	日光市清滝1-9-14	29,800	28,100	25,000	22,600	△24.2%
日光-3	日光市七里703番8	44,000	42,200	38,700	34,800	△20.9%
日光-4	日光市今市字下原1241番9	58,400	50,300	42,800	36,200	△38.0%
日光-5	日光市平ヶ崎字中原90番18	70,400	59,000	47,000	38,700	△45.0%
日光-6	日光市瀬尾字前原77番10外	40,700	39,200	34,900	30,800	△24.3%
日光-7	日光市今市字東原849番3	63,200	58,000	47,000	39,000	△38.3%
日光-8	日光市鬼怒川温泉大原字袋原731番37	50,000	43,900	37,800	32,000	△36.0%
日光-9	日光市鬼怒川温泉大原字立道下64番9	53,000	45,000	37,500	31,200	△41.1%
日光 5-1	日光市松原町10番6	109,000	92,500	72,000	60,200	△44.8%
日光 5-2	日光市中鉢石町904番1外	88,700	76,000	61,200	51,600	△41.8%
⊕日光 5-3	日光市今市字住吉町636番4外	108,000	80,200	60,000	51,000	△52.8%
⊕日光 5-4	日光市今市字春日町493番3	96,800	77,500	62,000	49,300	△49.1%
全 市 平 均						△37.1%
中心市街地内平均						△46.7%

資料：国土交通省「土地総合情報ライブラリー」

■日光市中心市街地の公示地価の推移図



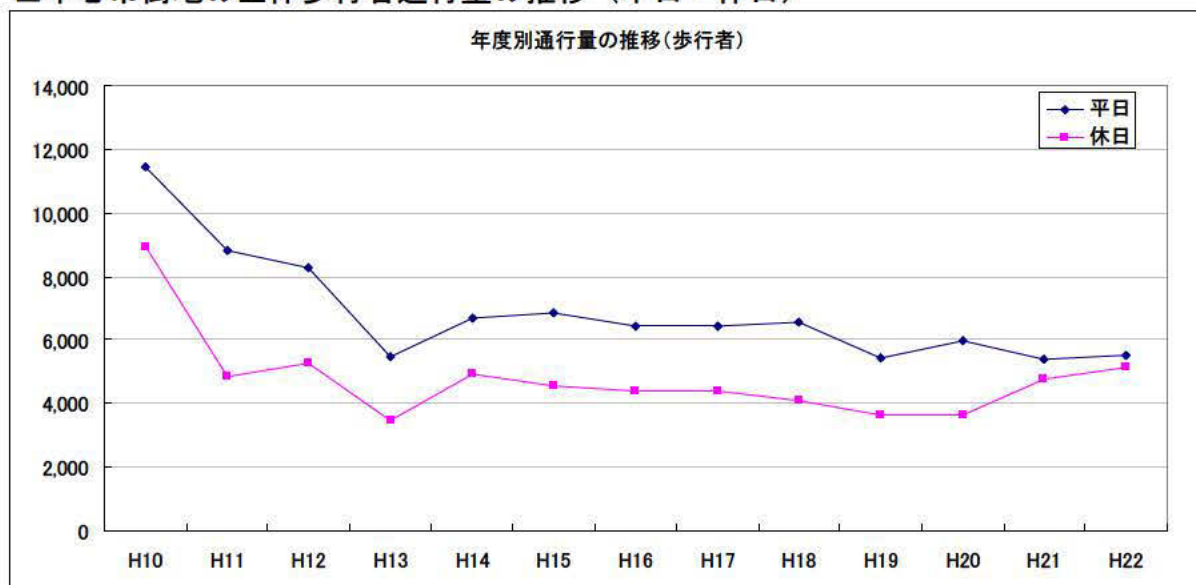
資料：国土交通省「土地総合情報ライブラリー」再掲P. 21図

(8) 歩行者通行量

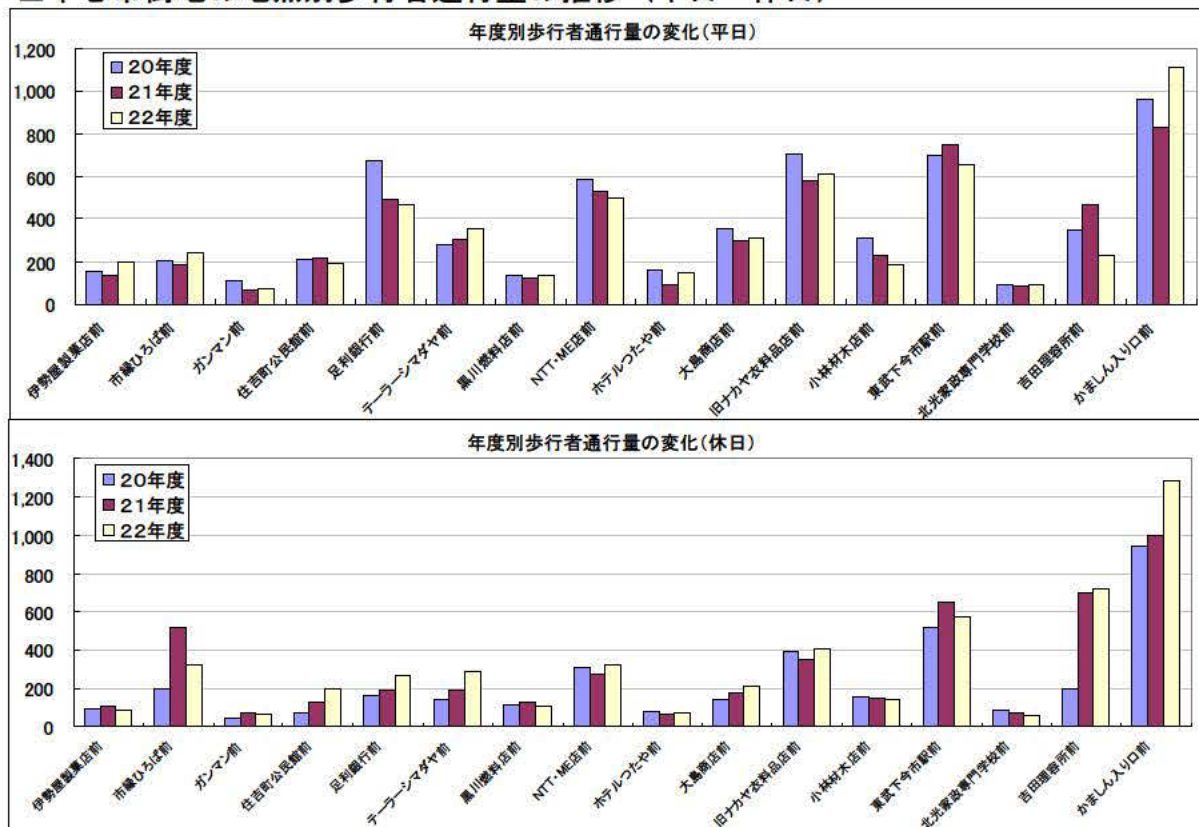
中心市街地の歩行者通行量は、平成 13 年度まで急激な減少傾向にあったものが、平成 14 年度以降は緩やかな減少傾向にある。

平成 20 年度調査以降、休日の通行量が増えている。調査地点別では「かましん入り口前」、「吉田理容所前」（天然氷店周辺）で大きな伸びが見られ、中心商店街の買い物施設、市縁ひろばでの休日通行量が増えている。平成 22 年度は、「まち歩きイベント」、「天然氷の PR」の実施による集客もあり、「かましん入り口前」、「吉田理容所前」、「住吉町公民館前」では、休日通行量が前年を上回っている。

■中心市街地の全体歩行者通行量の推移（平日・休日）

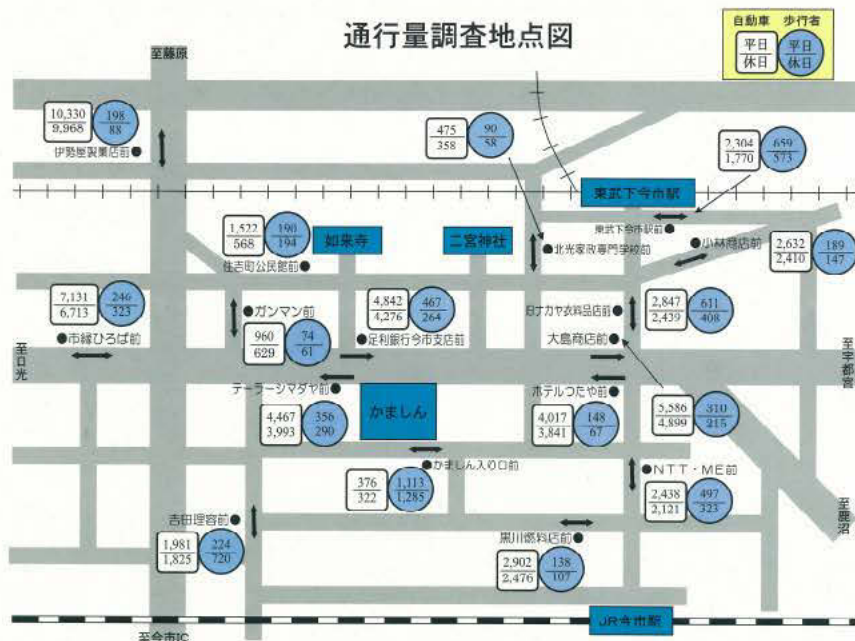


■中心市街地の地点別歩行者通行量の推移（平日・休日）



資料：各年度通行量調査

■ 中心市街地の地点別歩行者通行量（平成 22 年 7 月 25 日～26 日実施）



中心市街地歩行者通行量

	H10 年度	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
平日	11,434	8,801	8,259	5,455	6,672	6,839	6,438	6,452	6,577	5,448	,973	5,383	5,510
休日	8,948	4850	5,248	3,476	4,934	4,558	4,369	4,403	4,111	3,649	3,632	4,750	5,123
計	20,382	13,651	13,507	8,931	11,606	11,397	10,807	10,855	10,688	9,097	9,605	10,133	10,633

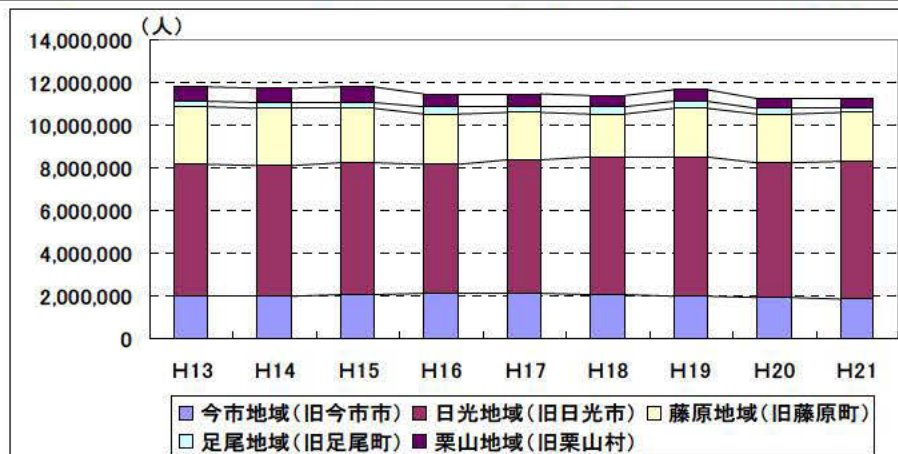
資料：各年度通行量調査

（9）観光入込客

中心市街地のある今市地域は市内では3番目に観光入込客数のある地域である。平成 21 年には、年間約 190 万人の観光入込客数がある。

■ 観光入込客の推移

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
今市地域(旧今市市)	2,035,980	2,039,390	2,105,103	2,174,131	2,162,758	2,045,129	1,997,461	1,910,312	1,902,632
日光地域(旧日光市)	6,105,000	6,041,000	6,138,000	6,021,293	6,224,236	6,464,773	6,512,738	6,271,147	6,430,239
藤原地域(旧藤原町)	2,706,000	2,686,180	2,531,770	2,332,880	2,166,857	2,011,978	2,300,893	2,289,335	2,228,871
足尾地域(旧足尾町)	299,270	302,710	299,640	294,457	291,159	302,531	296,171	261,257	250,475
栗山地域(旧栗山村)	674,090	676,220	712,170	637,219	600,854	71,417	526,842	485,276	438,845
計	11,820,340	11,745,500	11,786,683	11,459,980	11,445,864	11,395,828	11,634,105	11,273,327	11,251,062



資料：日光市観光交流課調べ

[5] 中心市街地に対するニーズの把握

(1) 買物調査

本調査は、商品別・店舗形態別の購買動向を的確に把握するため、消費者の購買行動範囲、商品の流通状況を調査し、地域小売業者の経営近代化の資料とするほか、商業施策の資料として活用することを目的とする。

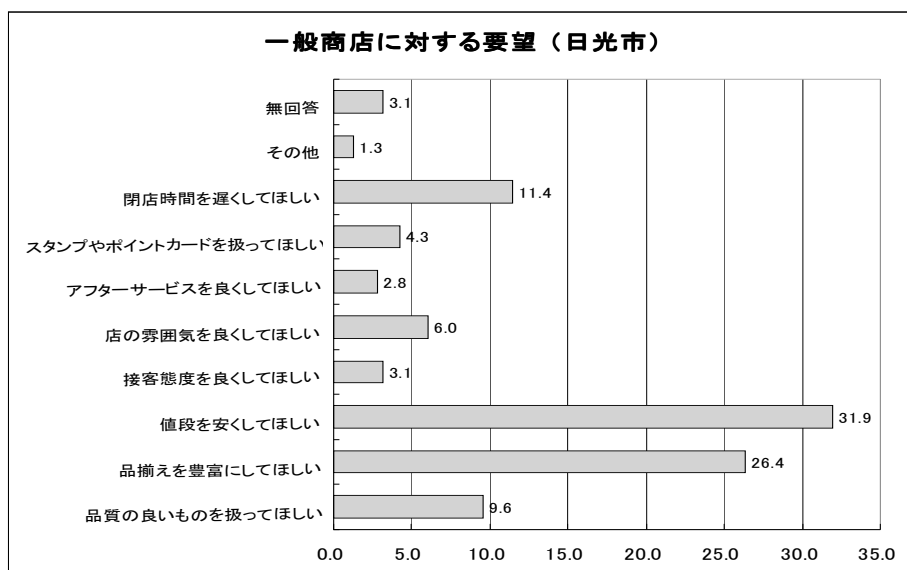
■調査概要

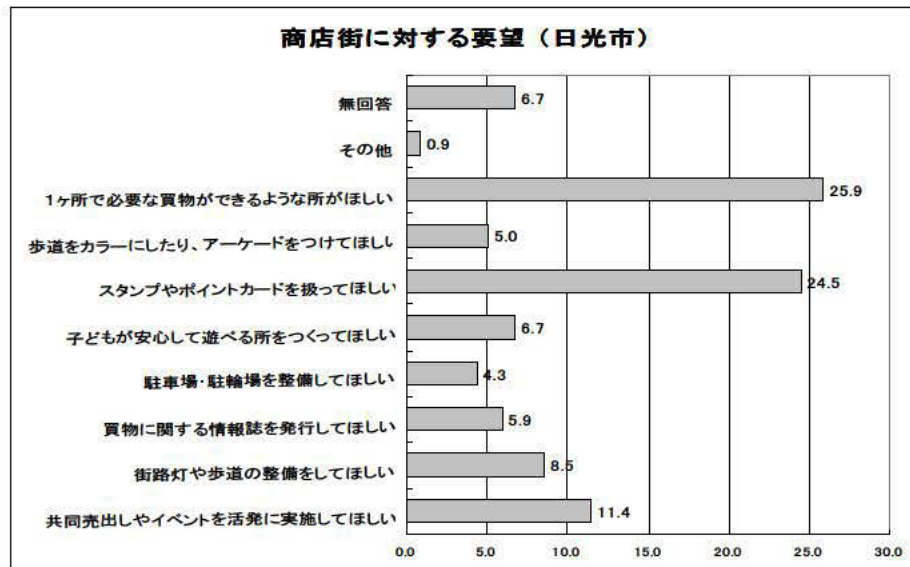
調査時期	平成 19 年 12 月～20 年 1 月
調査方法	市内 28 小学校を介して調査票を配布・回収する無記名式アンケート調査
調査機関	日光市（観光経済部商工課）
調査対象	市内 28 小学校に在学する第 6 学年児童を有する世帯
	調査対象世帯数 853 件
	回収数（回答数） 656 件（回収率：76.9%）
調査内容	①調査世帯の特性 ②商品別の購買動向 ③店舗形態別の買物をする理由及び時間帯 ④消費者の要望 ⑤自由意見

■主な調査結果

①一般商店及び商店街に対する要望

- ・一般商店に対する要望で最も多いものは、「値段を安くしてほしい」の 31.9%で、次に「品揃えを豊富にしてほしい」26.4%、「閉店時間を遅くしてほしい」11.4%の順となっている。
- ・商店街に対する要望で多いものは、「1 カ所で必要な買物ができるような所がほしい」25.9%、「スタンプやポイントカードを扱ってほしい」24.5%、「共同売出しやイベントを活発に実施してほしい」11.4%の順となっている。



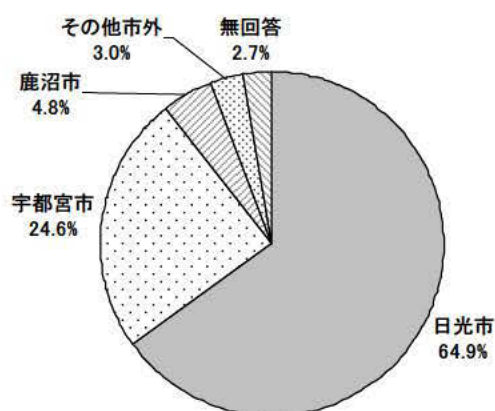


②今市地域の居住者の動向

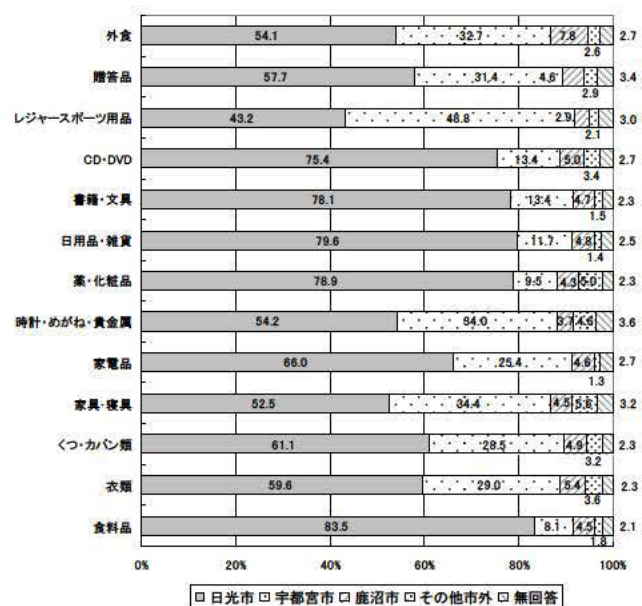
【買物をする市】

- 商品総合で買物をする市を見ると、最も多い市が「日光市」の 64.9%で、次に「宇都宮市」24.6%となっている。「宇都宮市」の割合は「今市地域」が5地域の中で最も高く、次に「日光地域」の 22.4%となっており、宇都宮市への交通の利便性によるものと推測できる。
- 商品別に見ると、日光市で買物をする割合が多い商品は、「食料品」83.5%、「日用品・雑貨」79.6%、「薬・化粧品」78.9%の順となっている。

■買物をする市（今市地域）



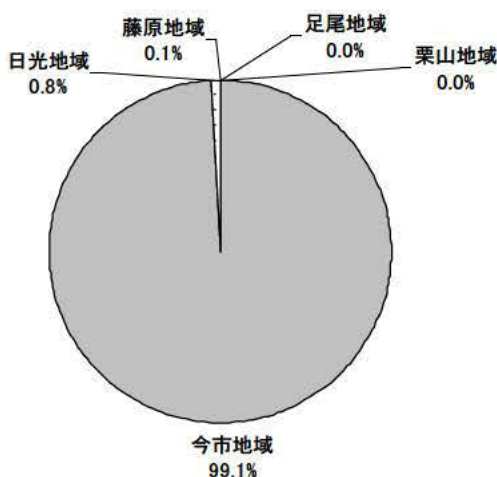
■商品別買物をする市（今市地域）



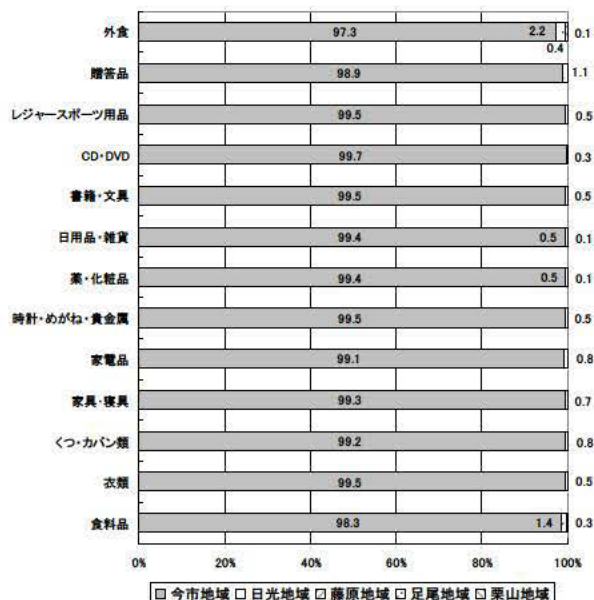
【買物をする地域】

- 商品総合で買物をする地域を見ると、「今市地域」が99.1%を占めている。
- 商品別に見ると、「外食」97.3%、「食料品」98.3%、「贈答品」98.9%以外の商品は、今市地域で買物をする割合が99%以上を占めている。

■買物をする地域（今市地域）

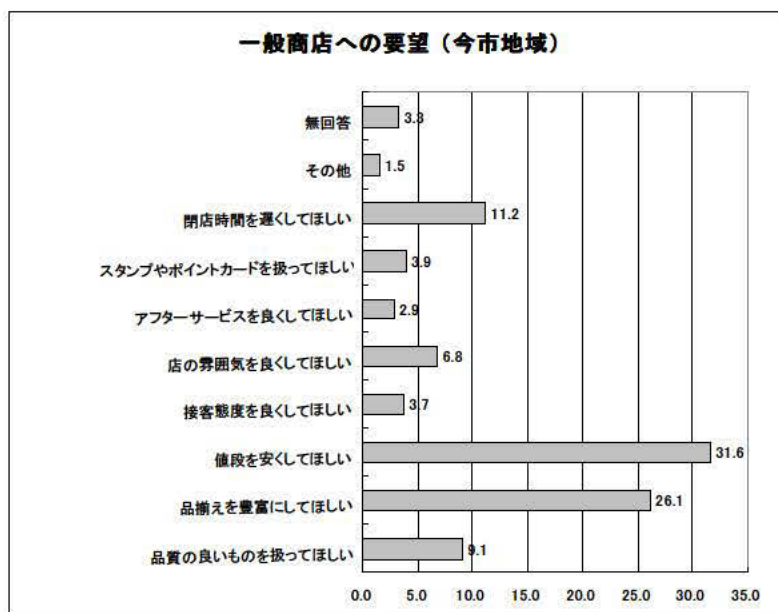


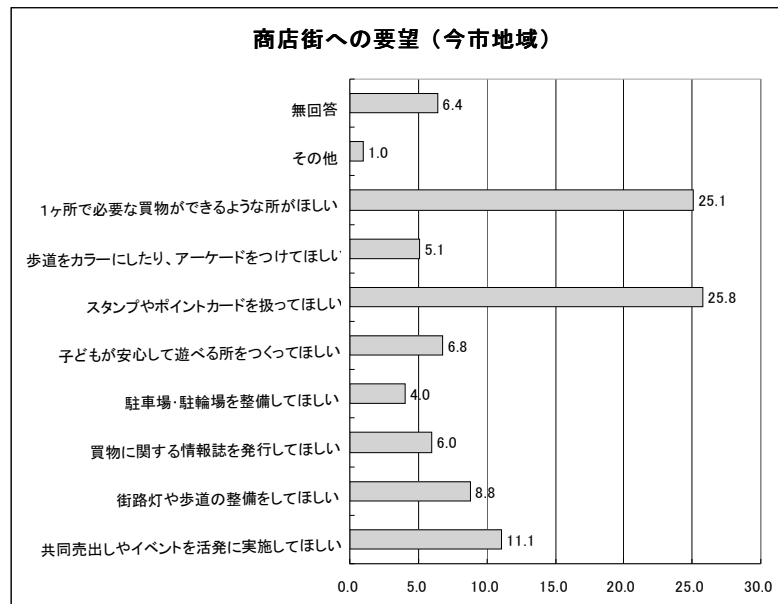
■商品別買物をする地域（今市地域）



【一般商店及び商店街に対する要望】

- 一般商店に対する要望で最も多いものは、「値段を安くしてほしい」の31.6%で、次に「品揃えを豊富にしてほしい」26.1%、「閉店時間を遅くしてほしい」11.2%の順となっている。
- 商店街に対する要望で多いものは、「スタンプやポイントカードを扱ってほしい」25.8%、「1ヵ所で必要な買物ができるような所がほしい」25.1%の順となっている。





（２）まちかどアンケート調査

本調査は、市民、来訪者など、生活者の視点から中心市街地の利用実態、印象・評価、活性化の取り組み効果等を把握し、中心市街地の位置付けや活性化取り組みの課題、問題点を把握することを目的に実施した。

■調査概要

調査日時	平成 17 年 9 月 16 日（金） 10：00～19：00 9 月 17 日（土） 10：00～19：00
調査方法	調査員による街頭面接アンケート調査 （中心市街地内、および郊外拠点（ジャスコ今市店）それぞれに調査地点を設定）
調査機関	日光市（観光経済部商工課）
調査対象	来街した 20 歳以上の男女（回答数）200 件
調査内容	・中心市街地の来街実態 ・中心市街地の印象・評価 ・中心市街地の活性化取り組みの評価 ・中心市街地へのまちづく のニーズ

■主な調査結果

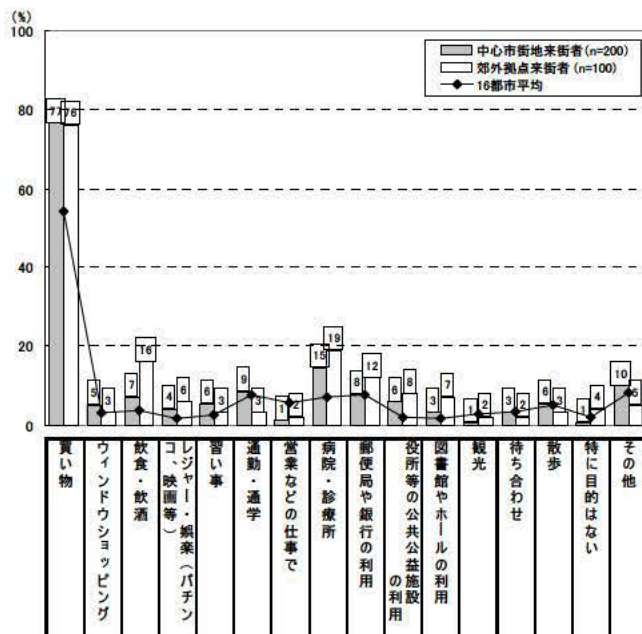
①中心市街地の来街実態

- ・中心市街地来街者の来街目的は、「買い物」（77%）、「病院・診療所」（15%）、「通勤・通学」（9%）の順となっている。

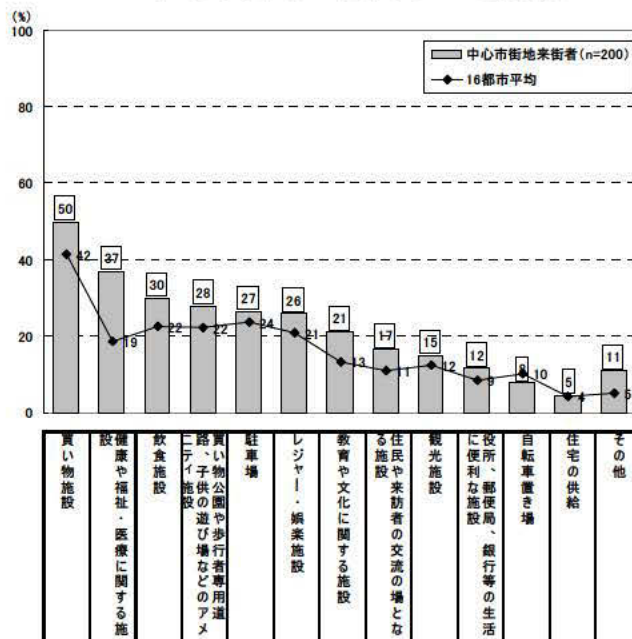
②中心市街地に充実すべき施設

- ・充実すべき施設の上位 3 位は、「買い物施設」（50%）、「健康や福祉・医療に関する施設」（37%）、「飲食施設」（30%）となっている。

■ 中心市街地の来街目的



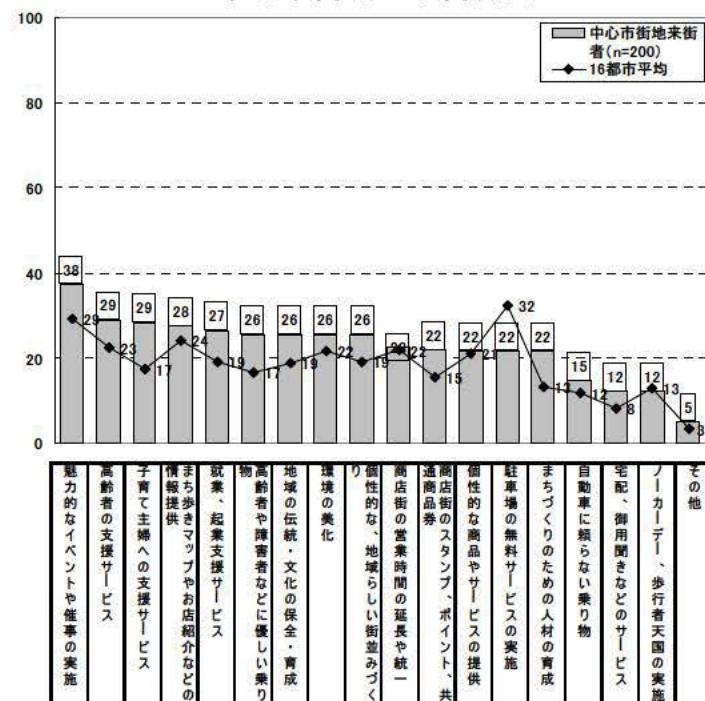
■ 中心市街地に充実すべき施設



② 中心市街地に充実すべきサービス・ソフト

- 中心市街地来街者の全体傾向としては、「魅力的なイベントは催事の実施」、「高齢者の支援サービス」、「子育て主婦への支援サービス」など、イベントの充実、高齢者や子育て主婦などの生活者を支援する機能が求められている。

■ 中心市街地の来街目的



〔6〕日光市中心市街地の課題

日光市及び日光市中心市街地の現況、各種調査結果などから、日光市中心市街地の問題点、課題を整理する。

①文化・交流（中心市街地における歴史・自然資源等）に関連する課題

他都市に誇れる歴史関連資源を活かした中心市街地活性化の具体策の検討

- ・今市地区は、日光街道・例幣使街道・会津西街道の結節点の宿場町としての歴史がある。また、世界遺産に登録された「日光の社寺」と「奥日光」を有する日光地区への玄関口である。
- ・中心市街地内には徳川家ゆかりの「如来寺」（東照宮を造った第3代将軍家光が宿泊するために建てられた壮大な御殿がある）、報徳仕法の祖である二宮尊徳翁ゆかりの報徳二宮神社などの歴史資源や、いまいちの水（湧水）、国の特別史跡・特別天然記念物の指定を受けている「日光杉並木」がある。
- ・以上の実態から、これら他都市に誇れる歴史関連資源を中心市街地活性化策に有効活用することが求められる。

②商業（中心市街地における商業環境）に関連する課題

中心市街地の商業環境の改善

- ・中心市街地の商業環境は、大規模小売店舗1店舗を核に中心市街地の骨格となる国道119号沿道、JR今市駅と東武下今市駅を結ぶ幹線道路沿道に商店会が形成されている。しかしながら、商業経営者の高齢化、後継者などの不在から、旧基本計画策定時（平成11年度）に10組織あった商店会は5組織にまで減少し、商業環境の疲弊が見られる。
- ・また、中心市街地は市内の他地域を一次商圈としているものの、商業環境の低下が著しい。中心市街地の商業環境の悪化は、市全体の商業環境の活性化にも影響を与える。
- ・買い物調査からは、商店街に対する要望として「1ヶ所で必要な買い物ができるところがほしい」「スタンプやポイントカードを扱ってほしい」といった意見が多く、商店街における日常の買い物の充実、ポイントカード等の販促サービスが求められている。
- ・以上の実態から、商業環境の改善に向けた事業者の育成、商業核施設の維持、文化的機能や生活支援サービスの誘導等が求められる。

③定住（中心市街地における居住環境）に関連する課題

少子高齢化の進展への対応

- ・中心市街地における人口は減少傾向が続いており、H21ではH11に対して約13%減少している。（住民基本台帳各年10月1日現在）
- ・年齢3区分別人口の割合を見ると、市全体と比較して中心市街地では、高齢化の割合が高い。（住民基本台帳各年10月1日現在）
- ・以上の実態から、今後、中心市街地の人口減少と少子高齢化の進展への対応が求められる。

既存ストック（公共公益施設）、市街地整備の動きを活かした居住促進

- 中心市街地内には多くの公共施設等が立地している。銀行や郵便局、病院・診療所といった民間の医療機関も多いほか、公民館をはじめとするコミュニティ施設が充実している。
- 中心市街地内の公示地価の推移を見ると、下落傾向が続き、H20 では H11 に対して平均約 45%減少している。
- JR 今市駅と国道 119 号との間の区域において土地区画整理事業により市街地環境の整備が行われた。今後、国道 119 号より北側の東武下今市駅との間の地区における主要幹線道路の整備とその沿道のまちづくりが予定されている。
- 平成 17 年 9 月実施のまちかどアンケート調査では、中心市街地に必要とされているサービスにおいて、「魅力的なイベントや催事の実施」、「高齢者の支援サービス」、「子育て主婦への支援サービス」が挙げられている。
- 以上の実態から、中心市街地は公共公益施設等の既存ストックの活用や都市基盤の整備に加え、日常生活をサポートするソフト面を充実することによる定住促進が求められる。

〔7〕 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

（1） 活性化の基本理念

旧基本計画では「いちえん融合 賑わいのまちづくり～リゾート交流・生活拠点・個性化による中心市街地活性化に向けて～」を活性化の理念として、旧今市市の中心市街地の活性化に向けた取組みを進めてきた。これを受けつつ、本計画では広域合併に伴う今市地区の役割を踏まえ、市内の商業・生活サービスの拠点として、次のような基本理念のもと活性化への取組みを展開する。

◆ 活性化の基本理念

生活、歴史・文化、観光のゲートタウンづくり

～ 歴史・文化・様々な人が織り成す“日光の顔”づくり～

◆ 活性化に向けた基本的な考え方

- ・人口の減少、少子高齢化の進展、地域経済活動の低迷などの課題に直面している中心市街地において、地域の新たな価値を創造し、活性化に向けたまちづくりを進めることが大切である。
- ・そのため、世界遺産に指定されている日光や鬼怒川の観光拠点との連携のもと、これらの観光拠点への玄関口としての立地特性、歴史・文化の蓄積を活かしたまちづくりを進める。また、外からの集客とともに、そこに住む生活者が暮らしやすいまち、住み続けたいまちとしての再生を進めるため、以下の視点のもと、活性化に向けた取組みの検討及び実施を図る。



（2） 中心市街地活性化の基本方針

基本方針1 文化・交流の促進

～地域に継承される歴史・自然、文化資源を活かしたまちづくり

- ・中心市街地及び周辺に位置する歴史・自然、文化資源を活用することにより、生活者、商業者、中心市街地に訪れる人々に交流の機会を提供する。
- ・当地域の特徴である徳川家や二宮尊徳翁ゆかりの社寺をはじめとする歴史遺産、日光街道杉並木の自然と景観、三街道の合流する宿場町の形跡を残す町割、伝統行事など歴史・自然、文化資源を生かして、“まち歩き”や“歴史を学ぶ・体験する”楽しみを持ったまちづくりを進める。
- ・六斎市や花市、音楽・文化活動など地域住民が中心となったまちづくり活動、商店街との連携による賑わいづくりを支援するとともに、賑わい創出の場となる交流拠点づくりを進める。

【基本方針実現に向けた戦略】

- ◆ 中心市街地及び周辺に位置する歴史・自然・文化資源を回遊できるよう、歩道の高質化等を図り、街なか観光としての環境を整える。
- ◆ 市内の日光地区、藤原地区方面への玄関口・経由地として、情報を発信し、今市地区をセットにした新たな観光ルートとしての魅力を伝える。特に東武鉄道を利用する観光客に対して今市地区の魅力をアピールし、途中下車を促す。
- ◆ 中心市街地を活性化するにあたり、当市にゆかりのある作曲家船村徹氏の賛同を得て、「船村徹記念館」と「(仮)日本のこころのうたミュージアム」を建設し、日本人の心に残る歌を全国に発信する場と位置付け、音楽活動の場を提供し、新たなコミュニティの創出と日本の音楽文化を通して多くの交流活性化を図る。

※船村徹氏と日光市の関係

船村徹氏は、昭和 7 年栃木県船生村（現塩谷町）に生まれ、28 年雑誌「平凡」の作曲コンクール入選作「たそがれとあの人」でデビュー。30 年の「別れの本杉」以後「王将」「なみだ船」「矢切りの渡し」など演歌のヒット曲を生む。

平成 7 年の紫綬褒章受章、平成 20 年の文化勲章受章

船村徹氏は、旧制今市中学（現今市高校）で青春時代を過ごし、現在も一年の大半を日光市にある「楽想館」で作曲活動にいそしむ。

基本方針2 商業活動の促進

～市民生活の台所、憩いの場となる中心商店街づくり

- ・市民生活の台所として日常の買い物、生活サービスの充実を図るとともに、市内及び県内の特産品・農産物等を活用することにより、地域における新たな価値を創造する。
- ・本市の豊富な自然資源を背景とした農産物等の地場産品、県内他地域の特産品など食が持つ魅力を活用した地産地消の促進、産業連携の促進により、中心市街地の新たな求心力づくりを進める。また、日光市内に訪れる観光客の誘引を図る。
- ・中心商店街において、空き店舗の情報カルテ化を進め、利用希望者と店舗所有者とのマッチングによる事業者の誘致、不足業種の誘致により、まとまりのある商店街づくりと住宅化商店の解消を図る。
- ・郊外の大規模小売店舗との競合関係の中、中心市街地内における商業核施設の維持、空き店舗が目立つ商店街における生活支援サービスの誘導や民家や蔵等を活用した魅力ある空間づくりを進める。

【基本方針実現に向けた戦略】

- ◆市民生活の台所として商業環境の充実を図るとともに、市内及び県内の特産品・農産物等、地産地消の促進、産業連携の促進を図ること等により、地域における新たな価値を創造する。

基本方針3 定住の促進

～地域住民が住みたい・住み続けたいまちづくり

- ・人口減少、少子高齢化が進む中心市街地において、生活環境の向上や、そこで生活する人々のつながりを強化することにより、定住を促進する。
- ・中心市街地の都市福利施設をはじめ、空き店舗等を活用した福祉・子育てサービスの充実を図る。
- ・中心市街地は歩ける範囲で買い物施設、病院・銀行などの公益施設やコミュニティ施設が集積していることから、高齢者や子育て世帯にとって生活しやすい空間であり、より安全で歩きやすい環境整備、利用しやすい施設整備等により、生活環境の一層の向上を図る。

【基本方針実現に向けた戦略】

- ◆都市基盤や都市福利施設がある程度整っている中心市街地において、より快適に生活を営めるよう、安心・安全で生活支援サービスが充実した環境を整える。

〔8〕基本方針を具現化するための具体的な施策

◆基本方針1 「文化・交流の促進」を具現化するための主な施策

【集客イベント開催】

小倉町周辺整備事業・多目的広場、多目的ホールにおいて開催するイベントを年間で企画し、イベントの充実を図り、交流機会を提供する。

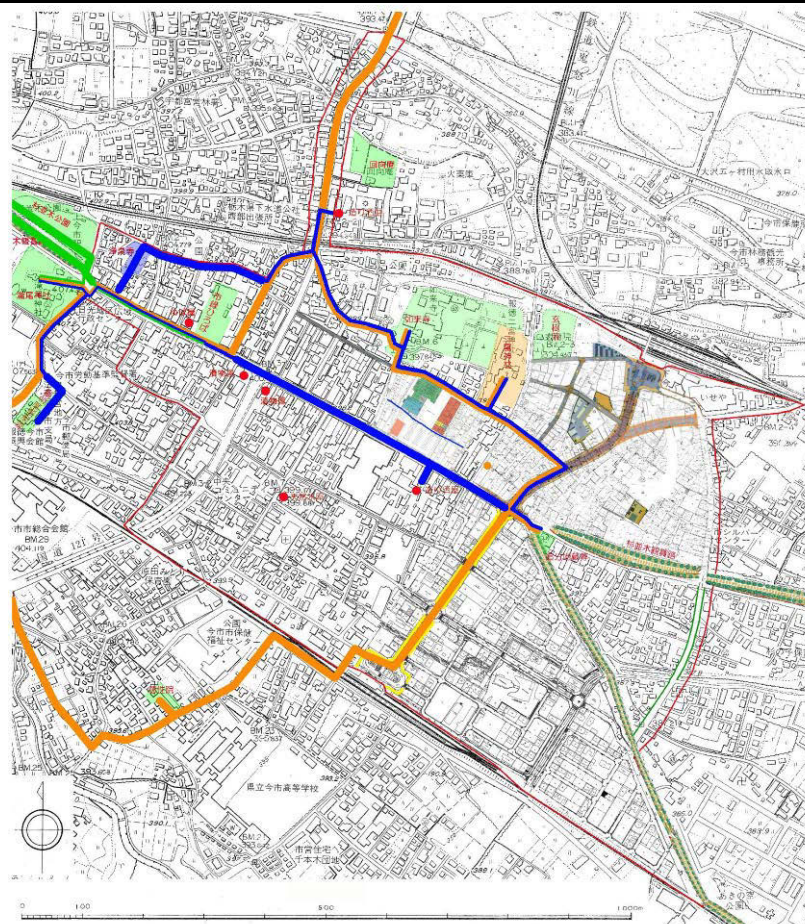
多目的ホールと多目的広場で延べ341日、季節イベント、姉妹都市・友好都市との観光交流イベント、映画、ライブ等のイベントを実施 ※多目的ホール開催日数：236日 多目的広場開催日数：105日

【街中散策(回遊)の充実】

街中回遊ルートのネットワーク 醸成するため、散策ルートマップを作成し、中心市街地散策ツアーを企画し、街中観光、街中買物への回遊性を図る。

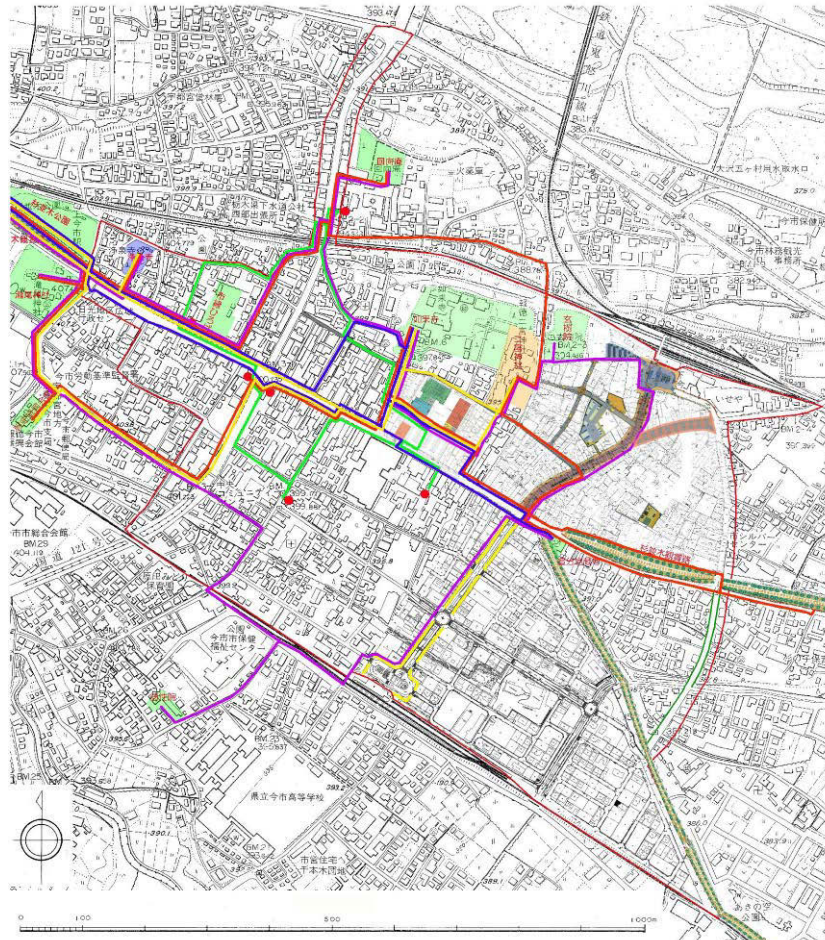
街中観光既設コース

コース名	凡例	行程	所要時間	コース順
七福神めぐり	—	約8.0km	約3時間20分	市縁ひろば→明静寺→本敬寺→如来寺→二宮神社→追分地藏尊→徳性院→瑞光寺→瀧尾神社→市縁ひろば
杉並木観光コース	—	約4.0km	約1時間30分	市縁ひろば→杉並木入り口→滝尾神社→浄水場→高麗神社→一里塚→芋の木杉→杉並木公園(名主屋敷→報徳仕法農家→分水筒→大水車日本の水車→植物園→日本庭園→世界の水車→唐人小屋跡地)→杉並木公園ギャラリー→市縁ひろば
市街地観光コース	—	約4.0km	約1時間30分	市縁ひろば→杉並木入り口→滝尾神社→今市御蔵跡地→報徳振興会館→二宮掘→浄泉寺→回向庵→如来寺→二宮神社→追分地藏尊→酒蔵→市縁ひろば



街中回遊モデルコース

コース名	凡例	行程	所要時間	コース順
(仮称)報徳の道		約3.5km	約1時間45分	小倉町→二宮堀(東裏用水)→浄泉寺→杉並木公園(報徳仕法農家)→今市蔵跡→報徳振興会館→如来寺→二宮神社→小倉町
(仮称)徳川の道		約9.6km	約4時間00分	小倉町→追分地藏尊→如来寺→会津西街道入口→杉並木公園→唐人小屋跡→杉並木鑑賞路→今市御蔵跡→小倉町
(仮称)幕末維新の道		約5.5km	約2時間10分	小倉町→和尚塚→二宮神社→回向庵→浄泉寺→杉並木鑑賞路→一里塚→砲弾撃ち込み杉→瀧尾神社→報徳振興会館→今市町道路元標→如来寺→小倉町
(仮称)信仰の道		約1.8km	約1時間30分	小倉町→如来寺→回向庵→浄泉寺→高霧神社→瀧尾神社→徳性院→追分地藏尊→玄樹院→二宮神社→小倉町
(仮称)グルメの道		約3.5km	約1時間45分	小倉町→造り酒屋→ゆば屋→つけもの屋→つけもの屋→天然氷屋→造り酒屋→小倉町



小倉町周辺整備事業・船村徹記念館、(仮)日本のこころのうたミュージアム、多目的ホール、多目的広場を整備し、賑わいづくりを支援し、新たな求心力づくりをする。

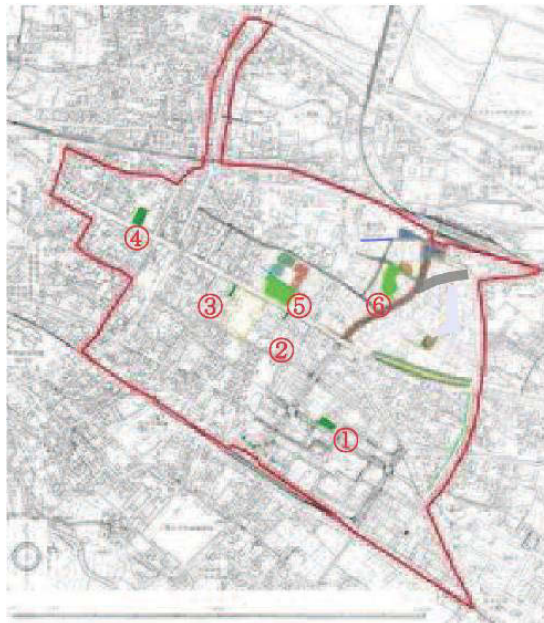
An architectural rendering of a proposed new building for the National Museum of Ethnology. The building features a modern design with a large glass facade and a dark, angular roof. It is situated in a landscaped area with parking spaces, a bus, and several cars. The surrounding context includes a river, a cityscape, and mountains in the background.

展示構成概要

[illegible]

【駐車場整備】

イベント等で来街する者のうち、自動車利用者の駐車場を街中((新)小倉町周辺整備駐車場、(新)東武下今市駅地区駐車場、(既)中央町駐車場、(既)市縁ひろば駐車場等)に確保し、街中散策の誘導を図る。



中心市街地区域内公設駐車場

No.	既設新設	面積(㎡)	駐車台数(台)
1	既設	650.49	33(普21 軽12)
2	既設	575.91	21(普20 軽1)
3	既設	1,658.81	43(普43)
4	既設	1488.00	47(普43 軽4)
5	新設	約3,000.00	約103(大5 普98)
6	新設	約2,262.00	約37(大4 普33)
合計		約9,635.21	約284(大9 普258 軽17)

《日光市調べ》

【情報発信】

集客イベント等開催の周知方法として、市の広報、ホームページ、新聞チラシ等により情報発信する。

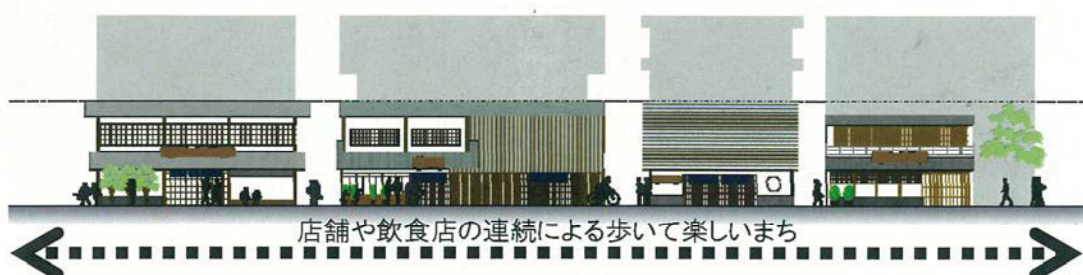
【誘客方法】

旅行業者、観光業者に対して、街中観光の案内パンフレット等を送付する。平成24年春、開業する東京スカイツリー内に開設する栃木県の観光情報施設において街中観光の案内パンフレットを配布する。

◆基本方針2 「商業活動の促進」を具現化するための主な施策

【商店街の街並整備】

景観形成ガイドラインで掲げている目標とする街並み「多様な魅力あふれるゲートタウンの街並み」に基づき、商店街景観形成整備で行う外観は、まちの一体感や長い歴史を感じさせる街並みを形成するため、「和」のデザインを基調とし、楽しく買物ができるような景観で来街者のおもてなしをする。



【日常の買い物、生活サービスの充実】

小倉町周辺整備事業・商業施設(日光市場、コンビニ)は、農産物等の地場産品、観光物産品、日常品等を販促し、市民の日常の買物、観光客の買物の誘引を図る。

【空き店舗対策】

空き店舗の情報カルテ化により、利用希望者と空き店舗提供者とのマッチングを行うことで商店街のテナントミックス促進と住宅化商店の解消を図る。

◆基本方針3 「定住の促進」を具現化するための主な施策

【定住促進】

民間の優良賃貸住宅建設支援制度の創設など、街中居住を推進する。

【福祉・子育てサービスの充実】

既存の地域子育て支援センターの充実と(新)障がい者の就労支援の促進事業、(新)地域子育て支援託児事業を実施し、福祉・子育てサービスへのニーズに応える。

地域子育て支援センターの現況



【生活環境の向上】

東武下今市駅周辺地区の生活道路網を整備することで、生活利便性の確保を図る。

